Kodak

i5000 シリーズスキャナー

ISIS アプリケーション用
スキャンセットアップガイド

A-61672_ja

ISIS ドライバの使用

目次

SVT 診断 / Scan Validation Tool の開始 2
[Scan Validation Tool] ダイアログボックス 4
イメージ設定の構成 6
- [メイン] タブ 8
- [レイアウト] タブ 11
- [スキャン領域] ダイアログボックス 12
- [イメージ処理] タブ 14
- [カラーの自動検知] タブ 16
- [ドロップアウト] タブ 18
- [調整] タブ 21
- [背景] タブ 22
- イメージの端を埋めるタブ 23
- [ブランクイメージ検出] タブ 24
- [バージョン情報] タブ 25

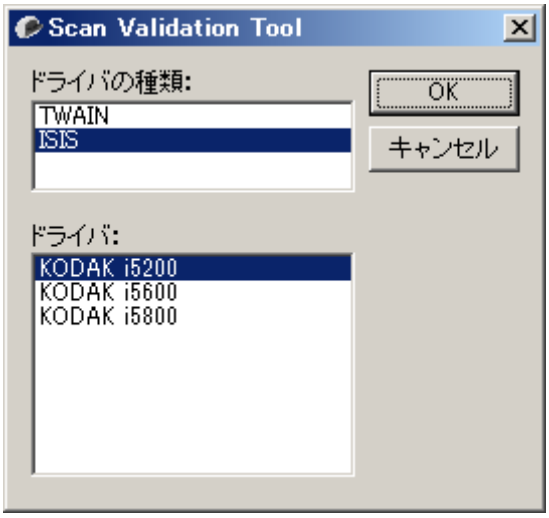
スキャナー設定の実行 25
- [スキャナー] タブ 26
- [重送検知]タブ 29
- [インプリンタ] タブ 33
- [イメージアドレス]タブ - i5850スキャナーのみ 36
- [パッチ/バッチ] タブ 38
- [スタッキング] タブ 41
  - スタッキングオプションを使用する場合の推奨設定 43
- [ログ] タブ 47

本ガイドは ISIS ドライバの使用手順やスキャナーの機能について説明します。これらの機能は、使用しているスキャンアプリケーションのユーザインターフェースでも選択できます。

本ガイドでは、デフォルトの ISIS ドライバインターフェースについて説明します。お使いのアプリケーションで、目的に合わせて ISIS ドライバのユーザーインターフェイスを変更することができます。アプリケーションプロバイダが ISIS ドライバのインターフェイスをカスタマイズしている場合は、このガイドで説明しているデフォルト画面とは異なる場合があります。

SVT 診断 / Scan Validation Tool の開始

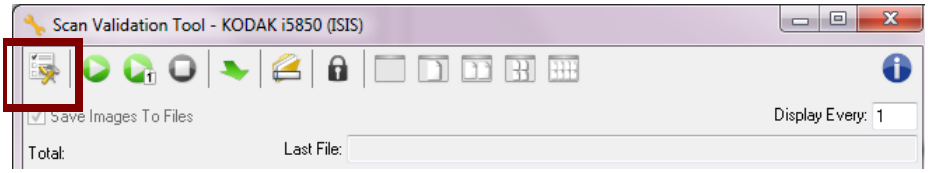
1. **[スタート]>[プログラム]>[Kodak]>[ドキュメントイメージング]>[SVT 診断]** の順に選択します。



2. ドライバの種類から **ISIS** を選択し、ドライバから KODAK **i5200 (i5600, i5800, i5850)** を選択してから、**[OK]** をクリックします。
3. いずれかの [イメージ表示モード] ボタンを選択し、イメージプレビューパネルを表示します。



4. Scan Validation Tool のメイン画面で **[セットアップ]** アイコンを選択します。



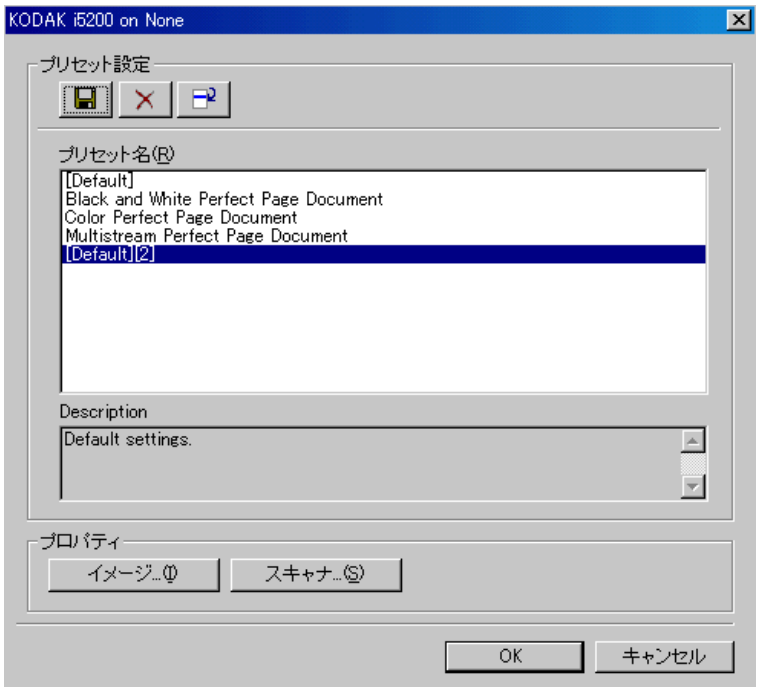
注： 画面上のアイコンの説明については本書で後述の「Scan Validation Tool ダイアログボックス」のセクションを参照してください。

[セットアップ] ダイアログボックスが表示されます。



5. **ISIS** をクリックします。[プリセット設定] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには保存されたドライバ設定のリストを選択できます。

   プリセットは保存、削除、インポートが可能で、既存のプリセットか変更するプリセットを選択できます。

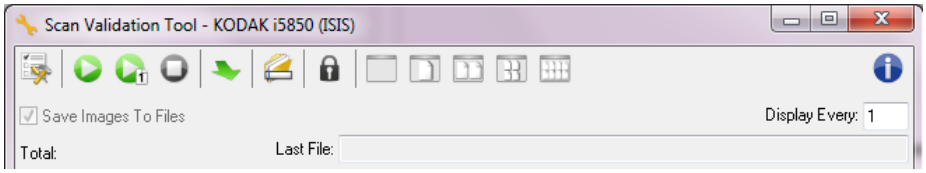


6. **イメージ**をクリックすると、イメージ関連の設定ができます。

   以降の章ではイメージ設定の詳細や手順について説明します。スキャナー設定の手順については、後述の「スキャナー設定の実行」を参照ください。

[Scan Validation Tool] ダイアログボックス

Scan Validation Tool (SVT) はコダックが提供する診断アプリケーションです。SVT のユーザインターフェイスを使用すると、スキャナーのすべての機能にアクセスできるので、スキャナーが正常に動作しているかどうか効率的にチェックできます。Scan Validation Tool を使用すると、ISIS ドライバを使用してスキャナーの機能を検証できます。



[ツールバー] ボタン

セットアップ — 選択されたドライバ用のユーザインタフェースを表示します。

保存先 — スキャンしたイメージを保存するディレクトリとファイル名を選択します。このオプションは、**[イメージをファイルに保存]** を選択した場合に利用できます。

スキャン開始 — 入力トレイにある原稿をスキャンします。

1 ページスキャン — 1 ページだけスキャンします。

停止 — スキャンを終了します。

ライセンスキー — [ライセンスキー] ウィンドウを表示します。

表示モード（画像なし） — イメージビューアウィンドウを閉じます（イメージは表示されません）。

表示モード（1 画像） — 1 回に 1 枚のイメージを表示します。

表示モード（2 画像） — 1 回に 2 枚のイメージを表示します。

表示モード（4 画像） — 1 回に 4 枚のイメージを表示します。

表示モード（8 画像） — 1 回に 8 枚のイメージを表示します。

バージョン情報 — Scan Validation Tool のバージョンを表示します。

イメージをファイルに保存 — 選択すると、指定したディレクトリにイメージが保存されます。

指定数ごとに表示 — スキャン中に表示するイメージのサンプリングレートを入力します。たとえば、すべてのイメージを表示する場合は「1」を入力します。イメージを 10 個おきに表示する場合は「10」を入力します。

[合計] — 現在の [Scan Validation Tool]（スキャン検証ツール）セッションでスキャンされた画像の総数を表示します。

- ISIS ドライバ（または TWAIN データソース）にアクセスするには、[Scan Validation Tool] ダイアログボックスの **[セットアップ]** アイコンをダブルクリックしてスキャナーメインウィンドウにアクセスします。

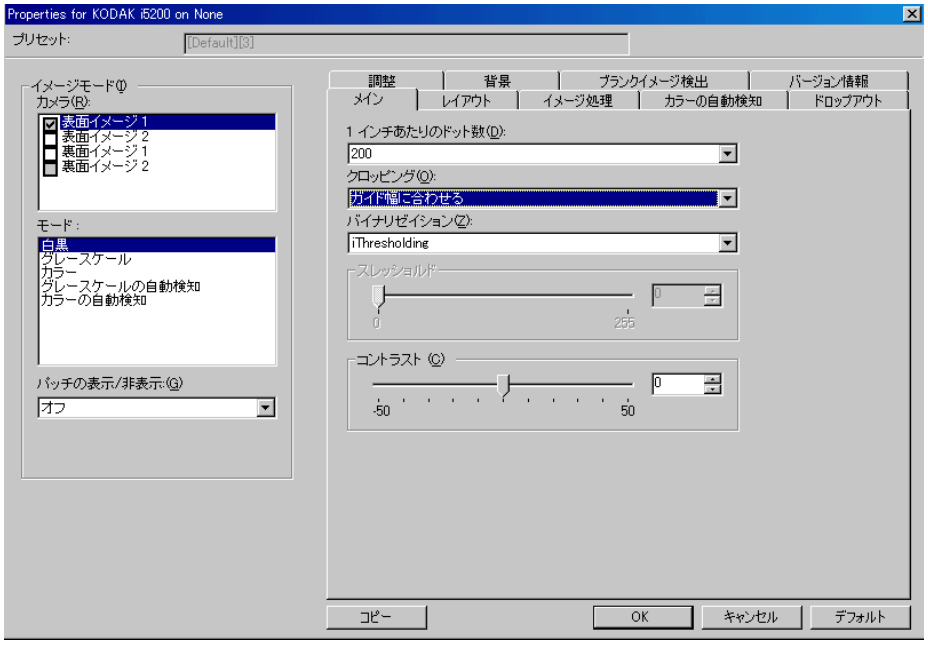
[最後のファイル] — 最後に保存した画像の完全パスとファイル名を表示します。

イメージ設定の実行

ISIS ドライバのメインウィンドウには、イメージ設定に使用するデフォルトタブがあります。スキャンの目的やニーズに合わせて、これらのタブを使ってオプションを設定できます。

ここでは、(Scan Validation Tool で表示される) ISIS ドライバのデフォルトインターフェースについて説明します。ホストアプリケーションは一部のタブを非表示にしたり、表示されるオプションを制限することで、インターフェースを変更できます。

注：(メイン、レイアウト、イメージ処理など) すべてのイメージタブでは **イメージモード** と **カラーパッチ** が選択可能です。



イメージモード — 次のいずれかのカメラオプションを選択します。

- **[カメラ] —** スキャン可能な面（表面および裏面）が一覧表示され、それぞれの面でイメージ処理値を定義できます。オプションには、**[表面イメージ 1]、[表面イメージ 2]、[裏面イメージ 1]、[裏面イメージ 2] があります**。

*コダック*スキャナーのドライバでは、カメラ設定を個別に設定できます。白黒イメージに適用される設定や、カラー／グレースケールイメージに適用される設定があります。

- **[モード]** — 次のオプションからいずれかを選択します。
  - **[白黒]** : 白黒 2 階調でイメージを作成する場合に選択します。
  - **[グレースケール]**: グレースケールでイメージを作成する場合に選択します。
  - **[カラー]** : カラーでイメージを作成する場合に選択します。
  - **グレースケールの自動検知** : カラーの自動検知をグレースケール用に設定します。詳細は「[カラーの自動検知] タブ」を参照してください。
  - **カラーの自動検知** :カラースキャンでカラーの自動検知を設定します。詳細は「[自動カラー検知] タブ」を参照してください。

[トグルパッチ] — トグルパッチを印刷した原稿から、スキャナーでその原稿がカラー／グレースケールまたは白黒のいずれかを判断します。

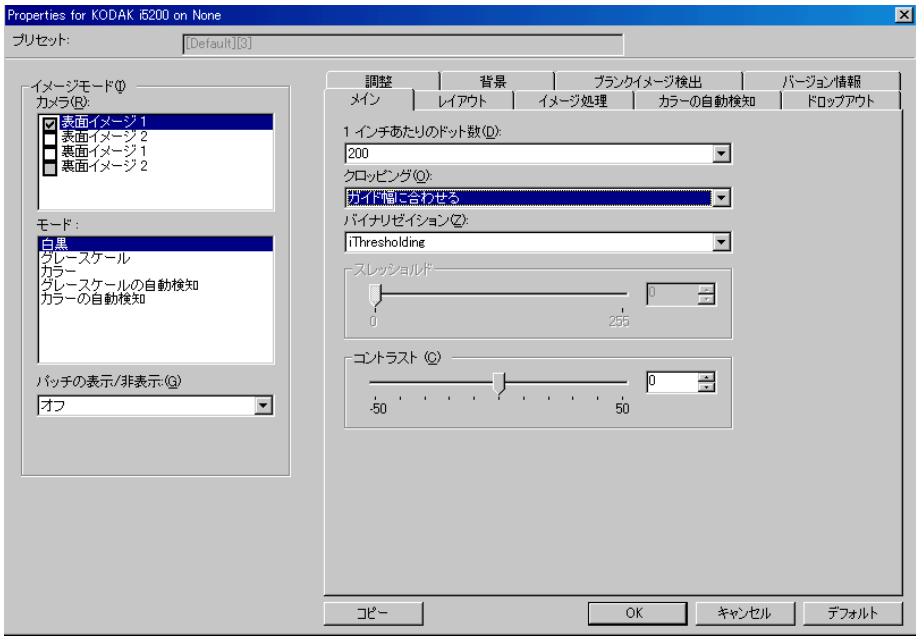
- **[オフ]** : パッチは使用されません。
- **[片面]** : パッチシートを認識する片面のみ切り替わります。
- **[両面]** : パッチは両面で認識されます。

[ボタン] — ウィンドウ下部にあるボタンは、すべてのタブに対して適用されます。

- **[コピー]** — 両面原稿をスキャンする場合に使用できます。片面のカラー、グレースケール、白黒イメージの設定を定義してから、[コピー] ボタンをクリックすると、その設定内容をもう一方の面にコピーすることができます。たとえば、**[表面イメージ 1]** を設定してから、[コピー] ボタンをクリックすると、その設定内容を **[裏面イメージ 1]** にコピーできます。
- **[OK]** — すべてのタブ上で設定された内容を保存します。
- **[キャンセル]** — 変更内容を保存せずにウィンドウを閉じます。
- **[ヘルプ]** — 選択されたウィンドウに示されているオプションについてのオンラインヘルプを表示します。
- **[デフォルト]** — タブの値をデフォルト設定に復元します。

[メイン] タブ

[メイン] タブには、以下のオプションがあります。



1 インチあたりのドット数 — スキャンする際の解像度を指定します。この設定はスキャンしたイメージの品質に大きく影響します。解像度を大きくすると、画質が良くなります。ただし、高い解像度でスキャンすると、スキャンに要する時間が長くなり、ファイルサイズが大きくなります。

解像度はドロップダウンリストから選択します。デフォルトは 200 dpi です。100、150、200、240、300、400、500、600 dpi が選択できます。

[クロッピング] — スキャン原稿の一部を切り取ります。クロッピングオプションは、カラー / グレースケール、白黒イメージですべて使用できます。表面と裏面のクロッピングを個別に設定できますが、同時出力スキャンの場合は、カラー / グレースケールクロッピングと白黒クロッピングを読取り面ごとに同じ値に設定する必要があります。クロッピングオプションは、1 イメージに対して 1 つだけ適用可能です。

- **自動**：原稿サイズ毎にクロッピングウィンドウを原稿の縁に合わせて直接調整します。
- **自動ー高画質**：イメージの端にある黒い外枠を除去します。これを選択すると、原稿の端のイメージデータが一部失われる可能性があります。
- **ガイド幅に合わせる**：（同じサイズの原稿をまとめてスキャンする場合）イメージとして出力する領域を定義できます。[ガイド幅に合わせる] クロッピングは、用紙サイズとページレイアウトと組み合わせて、原稿を中央に揃えてスキャンする場合に使用します。中央揃えを使用ない場合は、[レイアウト] タブでスキャン領域を設定する必要があります。詳細については、後述の「[レイアウト] タブ」を参照ください。

- **ドキュメントに合わせる**：（ゾーンプロセッシング）：（同一サイズの複数ページの原稿に使用）— ゾーンプロセッシングは、原稿の左上隅からレイアウトを設定する浮動固定クロップウィンドウ（ゾーン）です。そのゾーンをカラー／グレースケールで処理するか、白黒で処理するか選択できます（白黒とカラー／グレースケールを別のウィンドウに定義することもできます）。パラメータは、イメージの表面と裏面でそれぞれ選択できます。

  このオプションは、ある部分をカラー/ グレースケールまたは白黒で別々に保存したい場合、自動クロッピングと同時に使用します。写真、署名、エンボス（浮き出し）、印章など、対象となる部分が一定の場所に配置されている場合に大変効果的です（対象の小さい部分をカラー/ グレースケールでスキャンし、残りの部分を白黒でスキャンする場合など）。ゾーンを定義するには、[レイアウト] タブを選択します。

[バイナリゼイション] — これらのオプションは、グレースケールイメージに適用され、白黒のイメージを出力します。背景色や濃度が異なっていたり、前景情報の色や濃度が異なっていても、背景情報から前景情報を区別できるところに特長があります。同じ画像処理パラメータを使用してさまざまなタイプの原稿をスキャンでき、優れたスキャンイメージを得ることができます。

- **最高 - Intelligent QC**：iThresholding 解析に加え、Intelligent QC（品質管理）も実行されます。設定が困難な原稿のイメージがグレースケールで生成され、ご使用のアプリケーションソフトウェアで画質を最終的に決定することができます。

  注：このオプションは、*コダック*キャプチャプロソフトウェアで利用可能です。詳細については、ソフトウェアの説明書を参照してください。

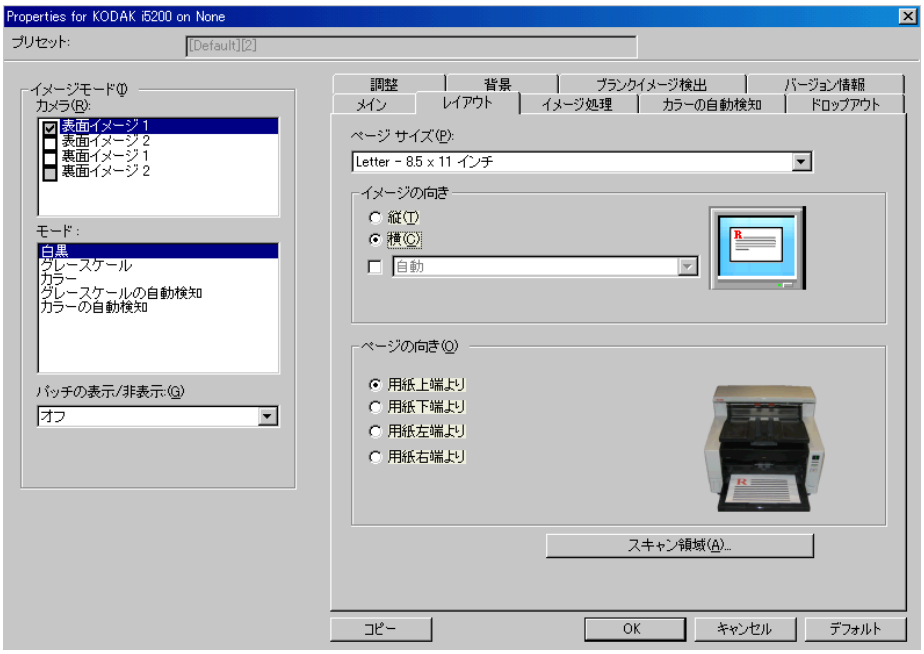
- **iThresholding**：高品質のイメージを生成するために、原稿を自動的に識別して、最適なしきい値（スレッショルド）が決定されます。単一の設定で画質が異なる原稿（文字のかすれ、濃淡のある背景、カラーの背景など）をスキャンすることができ、原稿を仕分けする手間を省くことができます。iThresholding を使用する場合は、[コントラスト] のみ調整可能です。
- **固定処理 (FP)**：白黒の原稿やその他のコントラストの高い原稿に使用します。[固定処理 (FP)] を選択した場合は、[スレッショルド] のみ調整可能です。
- **アダプティブスレッショルド (ATP)**：イメージの前景情報（文字、グラフィック、線など）を背景情報（白または用紙の背景色）と区別します。アダプティブスレッショルドを使用する場合は、[明るさ] と [コントラスト] を調節できます。類似する書類タイプをスキャンする場合にこのオプションを使用します。

スレッショルド（明るさ）— このオプションは**固定処理**または **Adaptive Thresholding (ATP)** を選択すると使用できます。このオプションを使用すると白黒イメージ明暗を調整できます。スレッショルドが高いほどイメージの色が暗くなります。スライダを使って、0 ～ 255 の範囲の値を設定してください。デフォルト値は 9 です。

[コントラスト] — 出力イメージの細部ディテールの強調レベルを調整できます。コントラスト値を高くすると、細部のディテールが強調されます。コントラスト値を低くすると、出力イメージはより鮮明（少ないディテール）になります。コントラスト値を高く設定しすぎると、出力イメージに不要な線や、色が濃くなり過ぎる場合があります。コントラスト値を低く設定しすぎると、出力イメージに必要な線や文字などが表示されない場合があります。-50 ～ 50 までの値を選択します。デフォルト値は 50 です。

[レイアウト] タブ

[レイアウト] タブには、以下のオプションがあります。



[ページサイズ] — スキャナーが最初に選択されたときのデフォルトの用紙サイズを設定します。ドロップダウンリストからさまざまな用紙サイズを選択できます。**[自動]**、**[アグレッシブ]** または **[写真]** クロッピング オプションを使用する際は、用紙サイズを**スキャナーの最大値**に設定する必要があります。

イメージの向き

- **縦**：通常の縦長の向きにイメージを表示します。
- **横**：横長の向きにイメージを表示します。
- **自動**：スキャナーが各原稿の文字方向を分析して、イメージを適正な方向に回転します。
  - **自動 - デフォルト 90 度**：スキャナーが原稿毎に分析して、原稿の正像を判断し、イメージを適正な方向に回転します。原稿の方向を特定できない場合、イメージを 90 度回転します。
  - **自動 - デフォルト 180 度**：スキャナーが原稿毎に分析して、原稿の正像を判断し、イメージを適正な方向に回転します。原稿の方向を特定できない場合、イメージを 180 度回転します。
  - **自動 - デフォルト 270 度**：スキャナーが原稿毎に分析して、原稿の正像を判断し、イメージを適正な方向に回転します。原稿の方向を特定できない場合、イメージを 270 度回転します。

ページの向き — スキャナーにセットする原稿の向きを選択できます。**[用紙上端より]**、**[用紙下端より]**、**[用紙左端より]**、**[用紙右端より]** のいずれかを選択します。

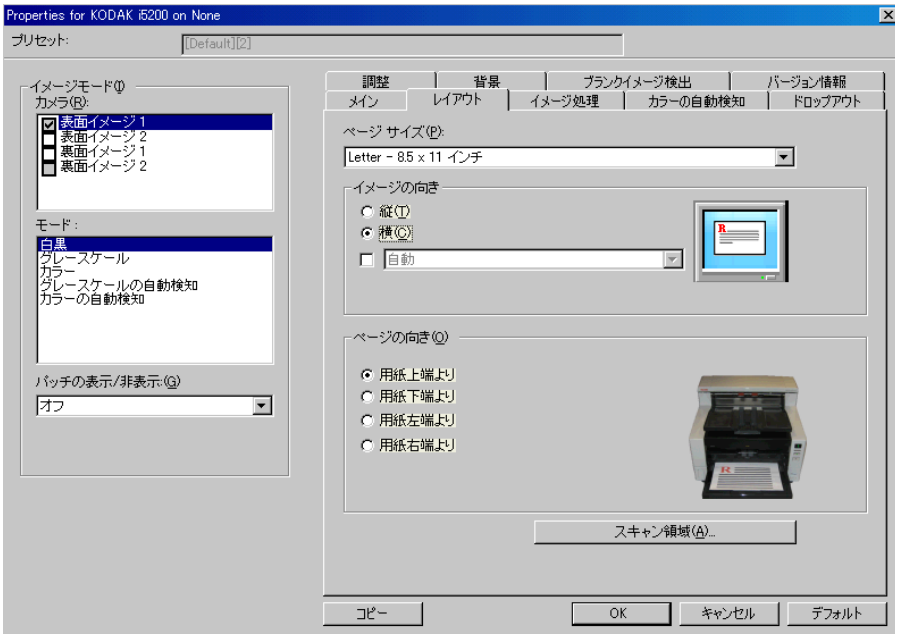
[スキャン領域] — [スキャン領域] ダイアログボックスを表示します。[スキャン領域] オプションは、クロッピングオプションが **[ガイド幅に合わせる]** または **[ドキュメントに合わせる]** に設定されている場合に利用できます。詳細については、「[スキャン領域] ダイアログボックス」を参照してください。

[スキャン領域] ダイアログボックス

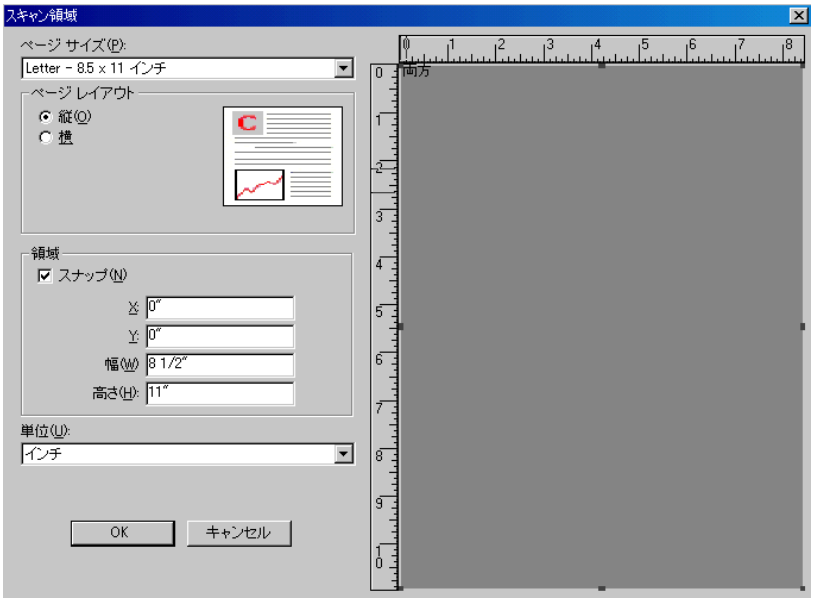
[スキャン領域] ダイアログボックスでは、ホスト PC に返されるイメージデータのサイズを定義します。

注：使用する**カメラモード**を選択します（例：**[表面イメージ 1]**、**[表面イメージ 2]**、**[裏面イメージ 1]**、**[裏面イメージ 2]**）。

- スキャン領域ダイアログボックスにアクセスするには、レイアウトタブの**スキャン領域**を選択します。



注：スキャン領域ダイアログボックスは、選択したメインタブで**ガイド幅に合わせる**または**ドキュメントに合わせる**が選択された場合に使用できます。



[ページサイズ] — スキャナーが最初に選択された時点でのデフォルトの用紙サイズを設定します。ドロップダウンリストから各用紙サイズを選択できます。

注：ページサイズはレイアウトタブにも表示されます。[スキャン領域] ダイアログボックスで設定を変更すると、[レイアウト] タブにも変更内容が反映されます。逆の場合も同じです。

ページレイアウト

- **縦向き**：従来の縦長の向きにイメージを表示します。
- **横向き**：横長の向きにイメージを表示します。

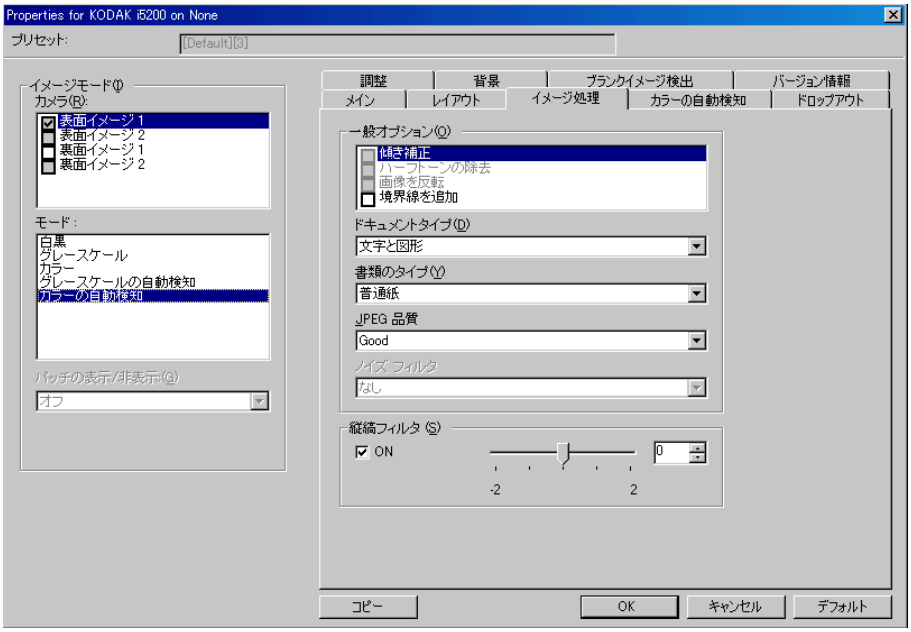
領域

- **[スナップ]**：プレビューウィンドウの大きさを 0.3175 cm 単位で制御する場合に、このオプションを有効にします。このオプションは、**ピクセル**モードでは無効になります。
- **X**：スキャナーの左端からスキャン始点の横位置を設定します。
- **Y**：スキャナーの上端からスキャン始点の縦位置を設定します。
- **幅**：スキャン領域の幅を設定します。
- **高さ**：スキャン領域の高さを設定します。

単位 — 領域定義する単位を **[ピクセル]**、**[インチ]**、**[センチメートル]** から選択します。

[イメージ処理] タブ

[イメージ処理] タブには、以下のオプションがあります。



一般オプション

- **[傾き補正]** — 原稿の先端の +/-0.3 度以内の傾きが自動的に補正されます。自動傾き補正では、最大 45 度までの傾きを検出し、200 dpi で 24 度まで、300 dpi で 10 度まで補正できます。このオプションは **[自動]** が選択された場合に使用できます。

  注：イメージデータの損失を防ぐために、原稿の四隅が搬送路内側に収まっていることを確認してください。

- **[ハーフトーン除去]** — ハーフトーンスクリーンを使って、点描画の文字やイメージ、濃淡のある背景やカラーの背景を持つイメージ品質を高め、ハーフトーンスクリーンにより発生したノイズを効果的に除去します。

- **[画像を反転]** — 黒ピクセルがイメージ内に保存される方法を選択できます。デフォルトでは、黒ピクセルは黒として、白ピクセルは白として保存されます。黒ピクセルを白として、白ピクセルを黒として保存する場合は、このオプションを有効にします。

  注：ご使用のアプリケーションがイメージデータの解析／処理を誤り、希望とは異なるイメージが保存される場合は、このオプションで対応できます。

- **[境界線を追加]** — イメージの上下左右に、外枠を追加します。このオプションは **[アグレッシブ]** が選択された場合に使用できます。

パンチ穴除去 — 原稿の端の周囲にある穴を埋めることができます。埋められる穴のタイプは、丸、長方形、不定形（例、二重穴が開いている、またはバインダーから原稿を取り外した際に発生した多少の裂け目など）です。

- 写真をスキャンする場合は［**パンチ穴除去**］を有効にしないでください。

ドキュメントタイプ

- **テキスト**：原稿の大部分が文字の場合に選択します。
- **文字と図形**：文章、グラフィック（棒グラフ、円グラフなど）、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- **文字と写真**：文字と写真が混在している原稿の場合に選択します。
- **写真**：主に写真で構成された原稿の場合に選択します。

原稿のタイプ — スキャンする用紙の素材や重量に基づいてタイプを選択します。オプションは、**普通紙、薄紙、光沢紙、カードストック、雑誌**です。

JPEG 品質 — JPEG 圧縮を選択した場合、いずれかの品質オプションを選択します。

- **ドラフト**：圧縮率を最大にして最小サイズのイメージを生成します。
- **標準**：標準的な圧縮率ですが、満足いく品質のイメージが生成されます。
- **高**：少し圧縮され、良い品質のイメージが生成されます。
- **最高**：小さい圧縮率で非常に良い品質のイメージが生成されます。
- **高品質**：最小の圧縮率で最大サイズのイメージが生成されます。

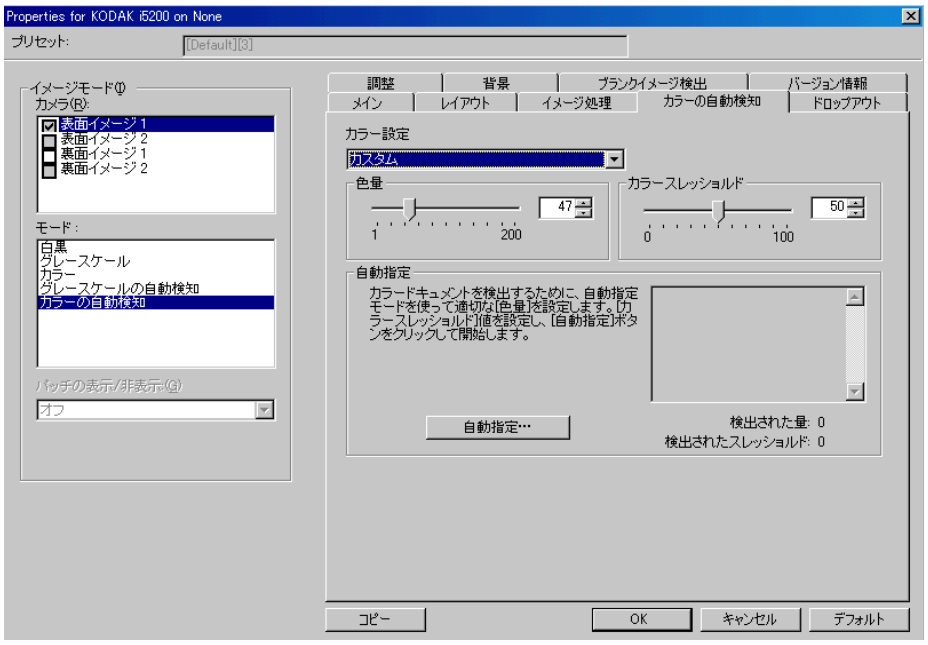
ノイズフィルタ

- **なし**
- **孤立ピクセル**：白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
- **マジョリティルール**：各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。ピクセルは周辺のピクセルの大部分が白の場合白になり、黒の場合は黒になります。

縦縞フィルタ — イメージから縦縞をフィルタするように設定できます。縦縞とは、原稿上には存在しないにもかかわらず、まれにイメージに現れる線のことです。縦縞は、原稿上の汚れ（例、泥、塵、擦り切れた端など）が原因で発生するか、スキャナーの推奨清掃手順に従わないために発生します。スライドバーを -2 ～ 2 の範囲で動かし、縦縞をフィルタする範囲を調整します。デフォルト値は 0 です。

[カラーの自動検知] タブ

[カラーの自動検知] タブには、以下のオプションがあります。



カラー設定

- **オフ**：デフォルト設定です。カラーの検知をしません。
- **低**：カラー / グレースケールイメージとして保存するときに、スキャンする書類の色の量が少ない場合に選択します。黒い文字と小さなロゴが主体の原稿や、マーカーの量や写真の色が少ない原稿をスキャンする場合に適します。
- **中**：カラー / グレースケールイメージとして保存する場合に、[低] オプションよりも色の割合が多い原稿の場合に選択します。
- **高**：カラー / グレースケールイメージとして保存する場合に、[中] オプションよりも、色の割合が多い場合に選択します。中～大規模のカラー写真などを多用している原稿に適します。中間色の割合が大きい写真を正しくスキャンするには、色量やカラー スレッショルドの調整が必要になる場合があります。

- **カスタム**: マニュアルで **[色量]** や **[カラー スレッショルド]** の値を調整することができます。

  注：[自動カラー検知] の値を設定した場合は、まず **[中]** オプションを選択してから、通常のスキャン作業でテストしてみることをお勧めします。白黒と比較して原稿の大半がカラー／グレースケールとして返された場合は、**[高]** に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。白黒と比較してカラー／グレースケールとして返された原稿が少なすぎる場合には、**[低]** に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。以上のオプションで満足のいく結果が得られなかった場合は、**[カスタム]** オプションを選択して色量やカラー スレッショルドを調整してください。

色量 — スキャンイメージをカラー / グレースケールで保存する際に必要な原稿上の色の量です。色量の値を増やすと、必要とされるカラーピクセルの量も増加します。有効値は 1 ～ 200 です。

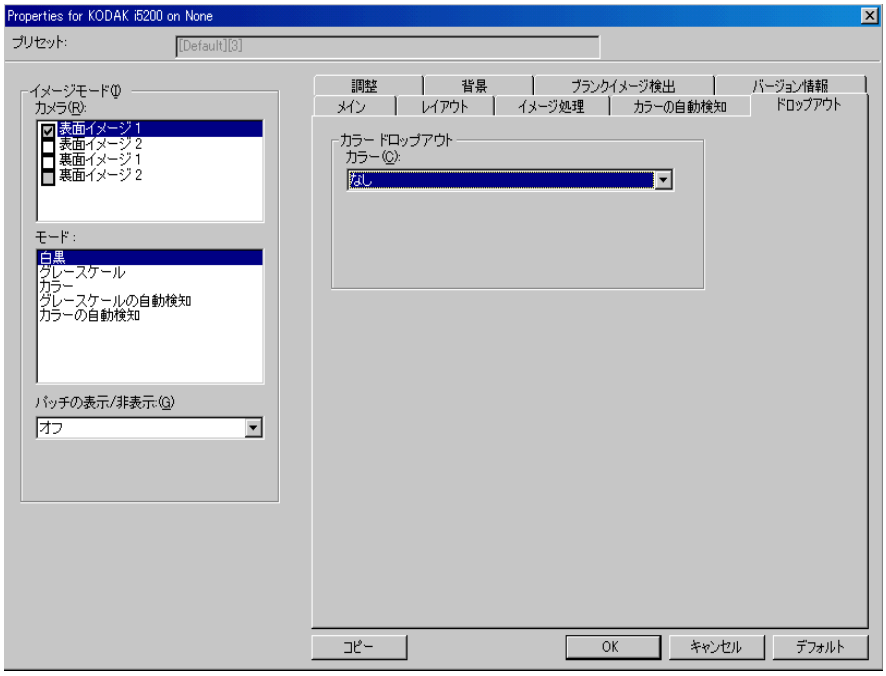
カラー スレッショルド — 色量の算出時に、色として識別させるためのカラー スレッショルドや彩度の割合（薄青と紺色の対比など）です。値を増やすと、必要とされる彩度が高くなります。有効値は 0 ～ 100 です。

自動設定 — スキャンしたサンプルのカラー原稿に基づいて設定値を算出します。**[自動設定]** を選択する前に、入力エレベータに 5 枚以上のカラー原稿をセットしてください。これらの原稿をスキャンし、分析することで推奨される [色量] が決定します。

注：計算に応じて **[色量]** と **[カラー スレッショルド]** のスライダが自動的に調整されます。算出された値を使っても期待通りの結果にならない場合は、**[カラー スレッショルド]** の値をマニュアルで調整してください。

［ドロップアウト］タブ

［ドロップアウト］タブには、以下のオプションがあります。



カラードロップアウト — フォームの背景を消去するために使用します。背景が消去されると入力されたデータのみがイメージとして保存されます（フォームの線とボックスを削除）。白黒イメージにこの設定を施すと、グレースケールイメージの設定にも影響します。

- **カラー**：ドロップアウトする色を選択します。
  - **なし**
  - **マルチ**：濃い色合い（黒や濃紺インクなど）以外の色をドロップアウトします。この機能はスキャンした各イメージのカラー分析を行い、最大 5 色までドロップアウトします。1600 万色以上に対応しています。*［強度］*スライダを使用して、カラーを調整します。スキャン原稿毎に解析するという点でユニークな機能です。ドロップアウトする色を選択する必要はありません。**［マルチ］**はグレースケールでも使用できます。
  - **主色**：主色をドロップアウトします。さまざまな単一色がドロップアウトできるので、フォームがすべて同じ色の場合でも、このオプションを使用します。1 つのバッチで複数のフォーム色を混在できるため、各色フォームをスキャンする場合にも役に立ちます。
  - **赤**
  - **緑**
  - **青**
- **強度**：ドロップアウトの強弱を調整します。値の範囲は、**-10 ～ 10** です。デフォルト値は 0 です。*このオプションは、［カラー］が **［複数］**または **［主色］** に設定されている場合にのみ使用できます。*

注：

- すべての［カラードロップアウト］オプションは、*［スキャン形式］*で**［白黒］**が選択されている場合に利用できます。
- グレースケールスキャンでは、**［赤］**、**［緑］**、**［青］**が使用できます。
- カラースキャンではカラードロップアウトは使用できません。

以下の赤、緑、青の Pantone 値は、優れたドロップアウト結果を出力します。

この値は、標準の Pantone Matching System® Colors ガイド（コーティングなし、175 ライン / 画面）を使用して確立できます。使用している原稿の背景が明るい白でない場合は、異なる結果になることがあります。iThresholding をお勧めします。iThresholding で満足できるカラードロップアウトの処理結果が得られない場合、ATP の設定により、2 値化を詳細にコントロールできます。

以下の表に、赤、緑、青のドロップアウトオプションで使用できる色のリストを示します。

i5000 シリーズスキャナー、ファームウェア V3.09.01 の RGB エレクトロニックカラードロップアウト

赤のドロップアウト

144U	150U	151U	1485U	1495U	1505U	Orange 021U	156U
157U	158U	1555U	1565U	1575U	1585U	162U	163U
164U	165U	1625U	1635U	1645U	1655U	169U	170U
171U	172U	176U	177U	178U	Warm Red U	179U	1765U
1775U	1785U	1788U	1767U	1777U	1787U	Red 032U	182U
183U	184U	185U	186U	189U	190U	191U	192U
1895U	1905U	1915U	1925U	196U	197U	198U	199U
200U	203U	204U	205U	206U	210U	211U	212U
213U	217U	218U	219U	Rubine Red U	223U	224U	225U
226U	230U	231U	232U	Rhodamine Red U	236U	237U	238U
239U	240U	2365U	2375U	2385U	2395U	2405U	243U
244U	245U	246U	247U	250U	251U	252U	Purple U
253U	256U	257U	2562U	2572U	2582U	2563U	2573U
2567U	263U	264U	2635U	2645U	236U	2365U	2375U
243U	244U	245U	250U	251U	256U	257U	2562U
2572U	2582U	2563U	2567U	263U	264U	2635U	2645U
1375U							

緑のドロップアウト

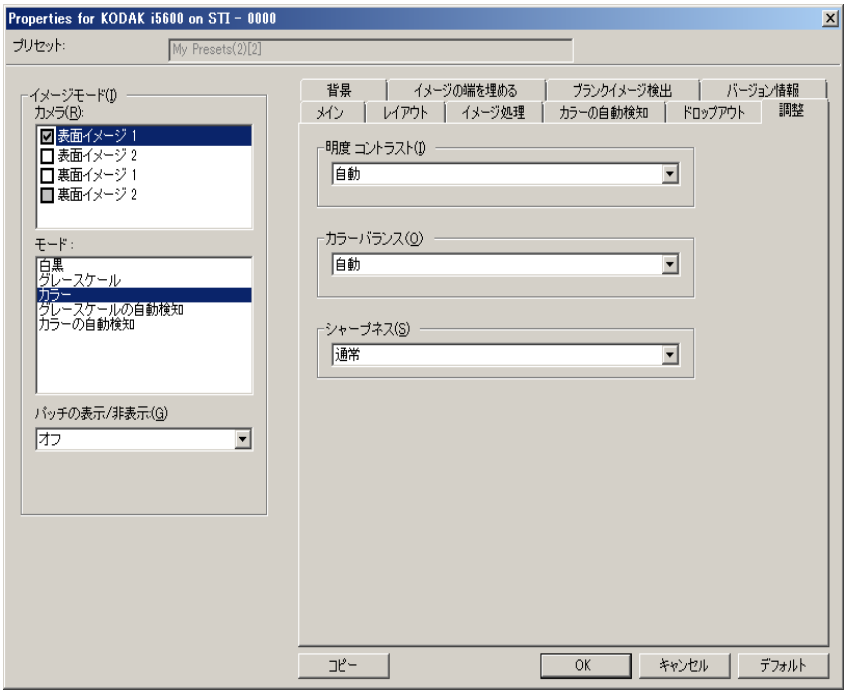
106U	107U	108U	109U	113U	114U	115U	120U
121U	122U	1205U	1215U	127U	134U	135U	1345U
148U	317U	3245U	331U	332U	333U	337U	3375U
3385U	3395U	344U	345U	351U	352U	353U	358U
359U	360U	365U	366U	367U	368U	372U	373U
374U	375U	376U	379U	380U	381U	382U	386U
387U	388U	389U	390U	393U	394U	395U	396U
397U	3935U	3945U	3955U	3965U	317U	3294U	

青のドロップアウト

317U	3245U	236U	2365U	2375U	243U	244U	245U
250U	251U	256U	257U	2562U	2572U	2582U	2563U
2567U	263U	264U	2635U	2645U	236U	2365U	2375U
243U	244U	245U	250U	251U	256U	257U	2562U
2572U	2582U	2563U	2567U	263U	264U	265U	266U
2635U	2645U	2655U	270U	271U	272U	2705U	2715U
2725U	2706U	2716U	2726U	2707U	2717U	2727U	2708U
2718U	2728U	277U	278U	279U	283U	284U	285U
290U	291U	292U	293U	2905U	2915U	2925U	2935U
297U	298U	299U	300U	2975U	2985U	2995U	3005U
304U	305U	306U	Process Blue U	310U	311U	312U	313U
3105U	3115U	3125U	317U	318U	319U	324U	3242U
3252U	3245U						

［調整］タブ

［調整］タブには、以下のオプションがあります。



明度とコントラスト

- **なし**
- **自動**：各イメージを自動的に調整します。
- **手動**：すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
  - **明度** - カラー／グレースケールイメージの白レベルを調整します。値の範囲は、**-50 ～ 50** です。デフォルト値は 0 です。
  - **コントラスト** - イメージをシャープに、またはソフトにします。値の範囲は、**-50 ～ 50** です。デフォルト値は 0 です。

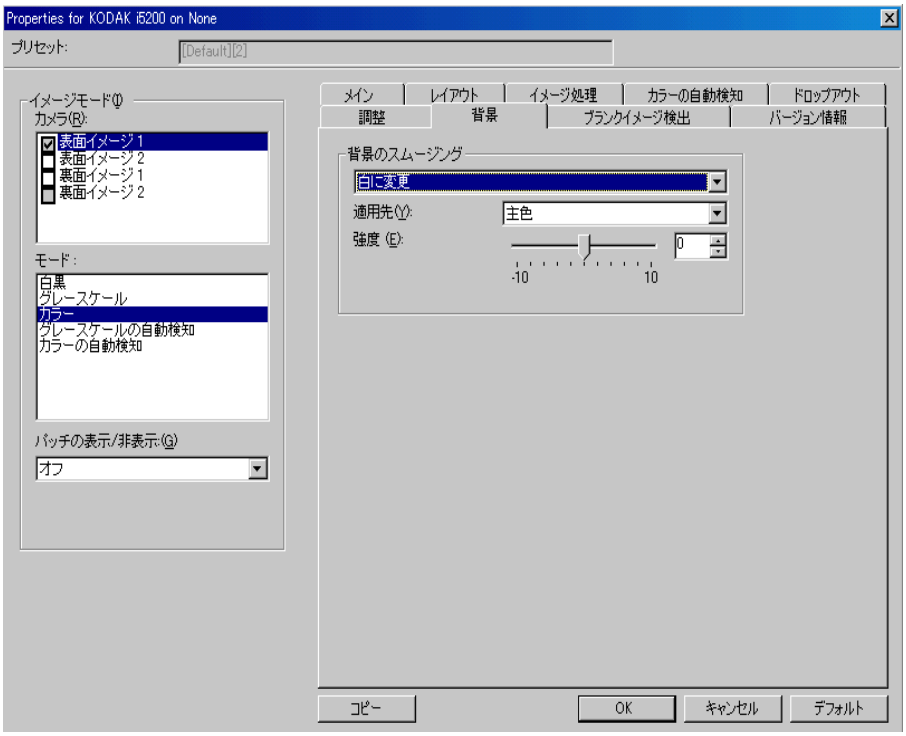
カラーバランス *（グレースケールでは無効です）*

- **なし**
- **自動**：各書類の白い背景を純白に調整します。このオプションを使用すると、用紙ごとの厚さやブランドの違いによる白の差異を補うことができます。このオプションは写真に対して使用しないことを推奨します。
- **自動 - 詳細**：**自動**オプションの詳細を設定したい上級者向けです。
- **手動**：すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
  - **赤** - カラーイメージの赤のレベルを変更します。値の範囲は、**-50 ～ 50** です。デフォルト値は 0 です。
  - **緑** - カラーイメージの緑のレベルを調整します。値の範囲は、**-50 ～ 50** です。デフォルト値は 0 です。
  - **青** - カラーイメージの青のレベルを調整します。値の範囲は、**-50 ～ 50** です。デフォルト値は 0 です。

シャープネス — エッジコントラストを増やします。オプションは［**標準**］、［**高**］、［**強調**］です。

［背景］タブ

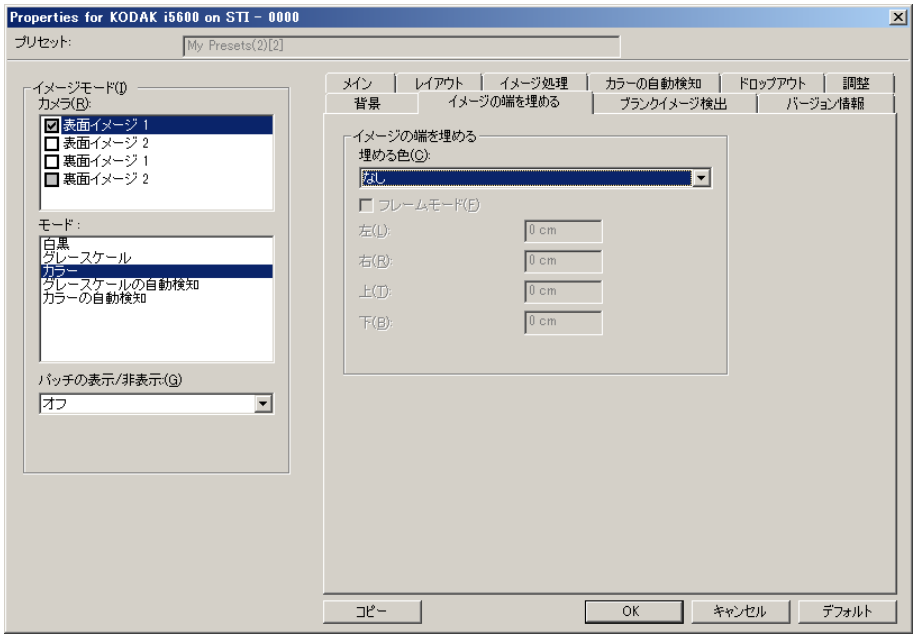
［背景］タブには、以下のオプションがあります。



背景のスムージング — 背景色のある原稿やフォームをスキャンする場合にこのオプションを使用すると、背景色を均一にします。

- **なし**：背景のスムージングは実行しません。
- **自動**：背景色を 3 色までスムージングします。
- **自動 - 詳細**：**自動**オプションの詳細を設定したい上級者向けです。
  - **強度** - 強弱を調整して背景色を調整します。値の範囲は、**-10** ～ **10** です。
- **白に変換**：3 色までの背景色を特定し、その各色を白にします。
  - **適用先**：
    - **メインの色** - 背景色のメインの色を白にします。
    - **中間色** - 中間色を白にします。他の背景色も 2 色まで均一にスムージングします。
    - **すべて** - 中間色を白にします。他の背景色も 2 色まで白にスムージングします。
  - **強度**：強弱を調整して背景色を調整します。値の範囲は、**-10** ～ **10** です。

[イメージの端を埋める]タブ　［イメージの端を埋める］タブには、以下のオプションがあります。



イメージの端を埋める — 最終的に出力されるイメージの端の領域を、選択された色で埋めます。

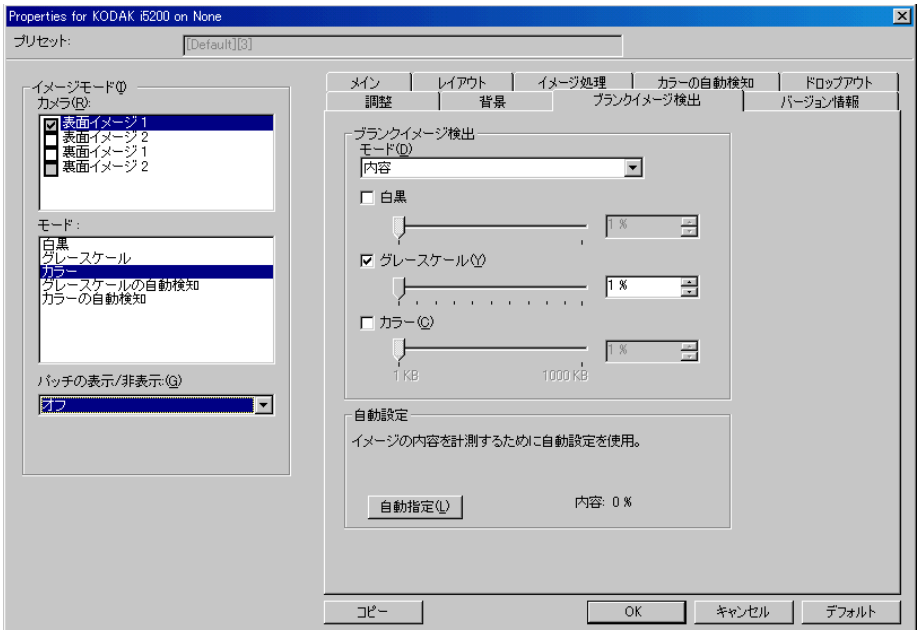
- **埋める色**：
  - **なし**
  - **自動**：イメージの端が周囲の色で自動的に埋められます。
  - **自動 - 破れを含める**：端埋めに加え、原稿の端の破れも補完されます。
  - **白**
  - **黒**

フレームモード — **黒**または**白**を選択する際、処理対象のフレームのサイズを入力できます。*[埋める色]* ドロップダウンリストで選択した色とサイズでイメージの 4 辺が等しく埋められます。

フレームモードが選択されていない場合、スキャンしたイメージの 4 辺から［**左**］、［**右**］、［**上**］、［**下**］領域の値を選択でき、選択に応じて黒または白で埋められます。

注：このオプションを使用するときは、大きな値を入力しないよう注意してください。値が大きすぎると、イメージデータが塗りつぶされる場合があります。

[ブランクイメージ検出] タブ　[ブランクイメージ検出] タブには、次のオプションがあります。



白紙イメージ検出 — スキャンアプリケーションに白紙のイメージが取り込まれないように設定できます。イメージが白紙と判断されるイメージのサイズ (KB) を指定します。設定値未満のサイズのイメージは作成されません。このオプションを使用する場合は、削除するイメージの種類（**白黒**、**グレースケール**、**カラー**）ごとに白紙と判断されるイメージサイズを指定する必要があります。各フィールドに値を入力しない場合は、すべてのイメージが保持されます。

- **オフ**: すべてのイメージがスキャンアプリケーションに送信されます。
- **サイズ**：スキャンアプリケーションに送信されるイメージのサイズに基づいて、（他のすべての設定が適用された後に）白紙であるかどうか判断されます。
- **内容**：イメージ内の情報量に基づいてイメージが白紙であるかどうか判断されます。**白黒**、**グレースケール**、**カラー**を選択し、スキャナーが白紙と判断する最大の内容量を選択します。内容量がこの値以上のイメージは白紙でないと判断されると、スキャンアプリケーションへ送信されます。値の範囲は、**0** ～ **100** です。

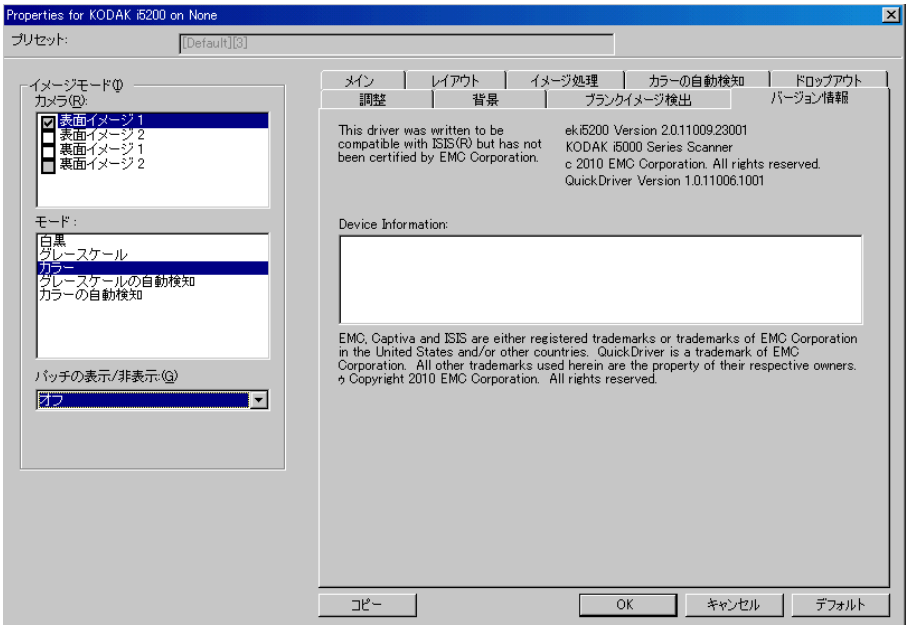
  注：コンテンツによる白紙イメージ検出は、スキャナーファームウェア 3.12.1（およびそれ以降）で改善されており、テキストがほとんどないページでも、より優れた検出が可能です。改善された機能では、ページあたり数文字だけでもその差が断定できます。この機能は感度が高いため、削除されつつあるイメージを見つけて削除されないようにする場合、比率コンテンツの値を増加させる必要がある場合があります。たとえば、5% の設定は、改善された機能では 12 ～ 13% と等しくなるでしょう。

自動設定 — スキャンされる原稿にもとづいてスキャナーが内容量を判断します。この機能を使用するには、**[自動設定]** をクリックします。

注：自動設定モードは表面と裏面の両方で同時に適用できません。適用する面を選択する必要があります。

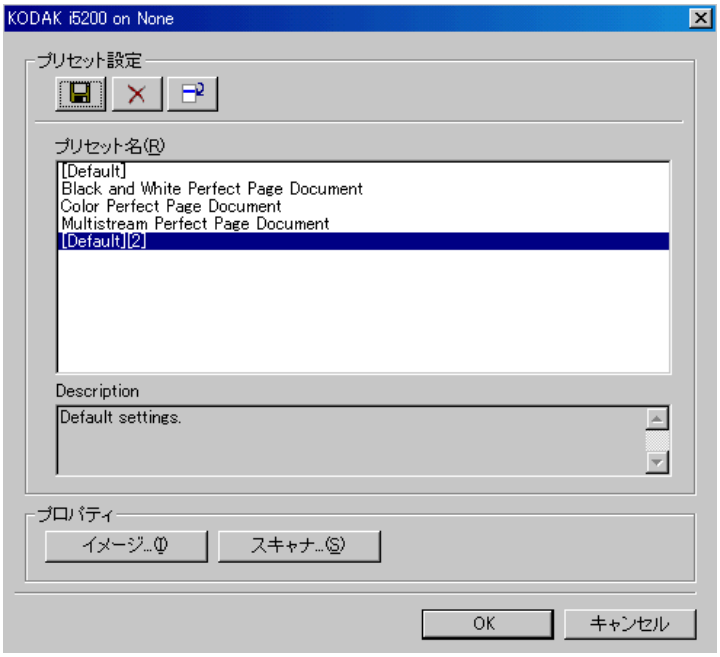
［バージョン情報］タブ

バージョン情報タブはスキャナーとドライバの情報を表示します。



スキャナー設定の実行

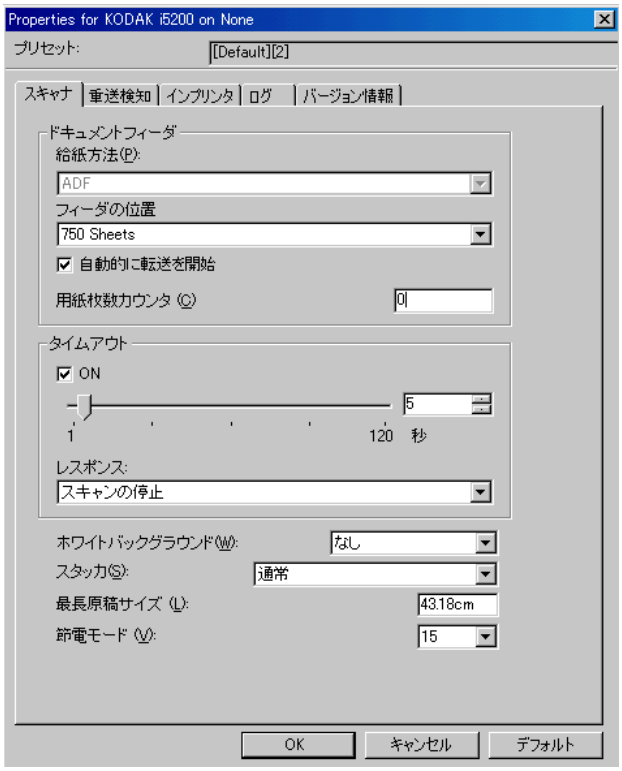
ISIS ドライバからスキャナー設定を開くには、Scan Validation Tool を前述の手順で開き、ISIS ドライバにアクセスします。



- **［スキャナー］**をクリックして、スキャナーを設定できます。以降の章ではスキャナー設定の詳細や手順について説明します。イメージ設定の手順については、前述の「イメージ設定の実行」の章を参照ください。

［スキャナー］タブ

［スキャナー］タブには、以下のオプションがあります。



ドキュメントフィーダ

給紙方法 — 自動ドキュメントフィーダ (**ADF**) すべての原稿は入力エレベータからスキャンされます。

フィーダの位置 — 以下から入力エレベータ位置を選択します。

- **通常 -** 入力エレベータは一番高い位置にあります。入力エレベータから 25 枚以下の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **100 枚 -** 入力エレベータから 25 ～ 100 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **250 枚 -** 入力エレベータから 100 ～ 250 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **500 枚 -** 入力エレベータから 250 ～ 500 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **750 枚 -** 入力エレベータから 500 ～ 750 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。

搬送を自動的に開始 — チェックしている場合、スキャナーは入力エレベータに用紙があると自動的にスキャンを開始します。入力エレベータに用紙がないと、エラーが発生します。

このオプションにチェックしていない場合、スキャナーは休止モードになりますが、オペレータがオペレータコントロールパネルの **[進む]** ボタンを押すとスキャンを開始できます。

用紙枚数カウンタ — スキャナーに入る次の原稿に割り当てられる番号を入力します。スキャナーによってカウントアップされ、イメージヘッダに送られます。

タイムアウト — 最後の原稿が取り込まれてからトランスポートタイムアウトが実行されるまでの時間を設定します。

レスポンス — ドキュメントフィーダがタイムアウトになったときに実行するアクションを指定します。

- **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。
- **スキャン一時停止**:スキャンは停止しますが､スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。スキャナーの［**開始／再開**］ボタンを押すと、スキャンを再開します。スキャナーの［**停止／一時停止**］ボタンを押して、またはスキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。

ホワイトバックグラウンド — 原稿の一部が欠けている場合、その部分の背景を黒の代わりに白で表示します。

- **なし**：表面と裏面に黒色のバックグラウンドを使用します。
- **表面**：表面にホワイトバックグラウンドを使用します。裏面は黒色が使用されます。
- **裏面**：裏面用にホワイトバックグラウンドを使用します。表面用には黒が使用されます。
- **両面**：表面と裏面に白色のバックグラウンドを使用します。

以下は、ホワイトバックグラウンドに最適な例です。

- 四角形でない原稿をスキャンするときに、イメージでは、原稿の外側のエリアを黒ではなく白にする必要がある場合。
- 片面印刷の薄い紙をスキャンするときに、原稿の地に黒が透けるのを防止する必要がある場合。

注：i5850 スキャナーを使用している場合、利用できるオプションは **[両面]** のみです。

スタッカ — 原稿の搬送方法を選択できます。これにより、スキャナーにフィードされる方法、スキャナー内の搬送速度、出力トレイに排紙される方法に影響が及びます。

注：管理デュアルスタッキングが有効な場合、[原稿処理] には、[**サイズ混在**：ベスト] 未満のスループットを用いたカスタムレベルが自動的に設定されます。

- **標準**：追加処理はありません。原稿サイズが全て同じ場合に最適です。
  - 最高の処理速度
  - 排紙コントロール**無効**状態
  - 原稿間のギャップが小さい
- **サイズ混在**：サイズが混在する原稿用の設定で、出力トレイに順番に排紙されるように制御します。ほとんどのサイズ混在の原稿セットに使用できます。
  - 処理速度が若干低下
  - 排紙コントロール**有効**状態
  - 原稿間のギャップが小さい

- **サイズ混在**：ベスト - サイズにかなり幅がある原稿セットの場合、出力トレイに順番に排紙されるように制御します。
  - 処理能力が若干低下
  - 排紙コントロール**有効**状態
  - 原稿間のギャップが大きい
- **薄紙**：出力トレイに排紙される際に特別な配慮が必要な原稿の場合。
  - 処理速度が大幅に低下
  - 排紙コントロール**無効**状態
  - 原稿間のギャップが小さい
  - 搬送速度が 1/4 に低下
- **厚紙**：カード紙よりも厚い原稿用 (0.25 mm)
  - 処理速度が大幅に低下
  - 排紙コントロール**有効**状態
  - 原稿間のギャップが小さい
  - 搬送速度が 1/4 に低下

最長原稿サイズ — 原稿セット内で最長の原稿サイズの値を設定します。

注：

- 長尺原稿は（解像度、カラー、グレースケールなど）すべての設定の組み合わせをサポートしません。柔軟に対応できるように、長さを超えた原稿が確認されるまでエラーを生成しません。
- 長尺原稿の場合は、スキャナーの処理能力が低下する場合があります。
- この値より長い原稿をスキャンすると、搬送部が停止し（スキャナー内に原稿が残ったまま）、紙詰まりのメッセージが表示されます。
- 最長原稿サイズは常に約 6.35 ～ 406.4 cm ですが、スキャンの最大長はビット深度（カラー / グレースケール / 白黒、スキャン解像度）によって異なります。白黒の 200 dpi は約 406.4 cm ですが、カラーの 600 dpi はかなり短くなります。ユーザが選択した最大長に達する前にスキャナーの処理能力を越えた場合、スキャナーに紙詰まりと表示され、ホストアプリケーションにはその原稿のイメージは送信されません。
- 非常に長い原稿など、サイズが混在する原稿をスキャンする場合、スキャナーのタッチスクリーンで［優先処理 1 枚］または［優先処理バッチ］オプションを使用して、［長尺ドキュメントスキャン］を有効にするとよいでしょう。
- 管理デュアルスタッキングが有効な場合、デフォルト設定は 10 インチ/254 mmの最長原稿サイズに制限されます。詳細については、『ユーザーズガイド』の第 5 章「長さ保護の有効化」参照してください。

節電モード — スキャナーが操作されていないときに待機状態に移行するまでの時間（**1** ～ **240** 分）を設定できます。デフォルトは 15 分です。

インテリジェント保護 — スキャナーに正しく入っていないドキュメントを、スキャナーがどの程度積極的に検出するかを選択できます。これは、スキャンする際に、ドキュメントの準備がきちんと整っていない場合に発生します（ホチキス止めやクリップされたままのドキュメントなど）。

- **なし**
- **標準**：これは推奨するオプションであり、ドキュメントの損傷を最小限にし、スキャナーを必要以上に停止させないことで双方のバランスを取ります。
- **最低**：ドキュメントを必要以上に検出することによりスキャナーがあまりにも頻繁に停止する場合、このオプションを選択します。

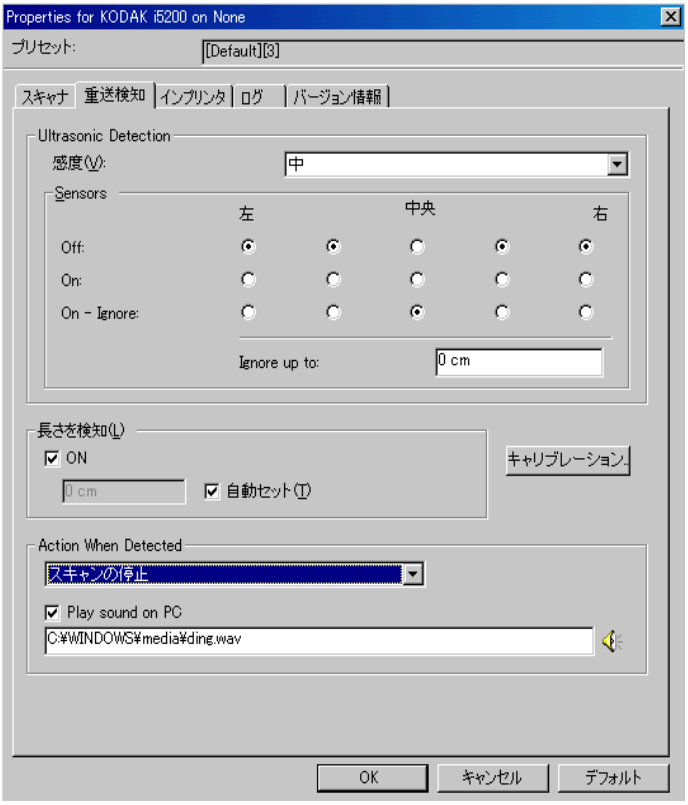
  注：検出しないと、ドキュメントはさらに損傷する場合があります。

- **最大**：ドキュメントの損傷を極力防ぐ場合、このオプションを選択します。

  注：スキャナーが必要以上に停止してしまう場合があります。

[重送検知] タブ

重送検知機能は、原稿が重なった状態で給紙された時点で重送を検知します。重送検知はホッチキスで綴じられた原稿、糊のついた原稿、静電気を帯びている原稿が原因で発生します。[重送検知] タブには、以下のオプションがあります。



超音波検知機能 — 重送検知機能を設定する場合に、このオプションを選択します。

- **感度**：搬送路に複数の原稿が重なった状態で搬送された際の検知レベルを指定します。重送検知機能は、原稿との隙間を検出することにより、重なった書類を識別します。そのため、厚さの異なる原稿が混在している場合でも、重送を認識します。
  - **低**：レベルが低い設定で、ラベルが貼られた原稿、紙質の悪い原稿、皺がある原稿を重送として認識する可能性がもっとも低くなります。

- **中**：厚さが異なる原稿や、ラベルが貼られた原稿をスキャンする場合に使用します。ラベルの材質にもよりますが、ほとんどのラベルは重送とは認識されません。
- **高**：最もレベルが高い設定です。この設定は、すべての原稿が 75.2 g/m^2 のボンド紙である場合など、厚さが同じ原稿をスキャンする場合に向いています。

センサ — 5 ヶ所のセンサが搬送路の幅をカバーします。重送を正しく検知するためには原稿が各センサの下を通過しなければなりません。

- **左**から**右**：5 ヶ所から有効にするセンサを選択できます。たとえば、原稿の左側にメモが「貼付」されている場合、左のセンサを無効にできます。
- **最大無視数**：入力した値までの重送を無視します。このオプションは重送検知センサを完全に無効にすることなく重送を許可したい場合に便利です（例：約 7.6 cm の付箋）。

  注：
  - このオプションを使用するには 1 つ以上のセンサを **On - Ignore** に設定する必要があります。
  - この長さは **On - Ignore** 設定されているすべてのセンサに適用されます。

長さを検知 — 有効にすると、重送検知されずにスキャンされる最長原稿サイズを選択できます。同じサイズの原稿スキャン時に重送を検知するため、長さ検出を使用します。たとえば、A4 (210 mm x 297 mm) の原稿を縦でスキャンする場合は、*[最大長]* フィールドに 28.57 cm と入力します。最大の値は 35.56 cm です。

- **自動セット**：現在選択されている用紙サイズより 1.27 cm 長い値を自動的に最大の長さとして設定します。

検知時の動作 — 重送検知時のスキャナーの動作を選択します。オプションに関係なく、状態はスキャナーのログに記録されます。

- **スキャンの続行**：スキャナーはスキャンを継続します。スキャナーはユーザが重送用に設定した音を鳴らします。
- **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。搬送路に原稿が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。原稿は排紙されます。重送原稿のイメージはホストアプリケーションには送信されません。
- **スキャンの停止 - 用紙を搬送部に残す**：スキャンを直ちに停止し（搬送路に残ります）、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。搬送路から原稿を取り除き、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。重送イメージはホストアプリケーションには送信されません。
- **スキャン一時停止**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは次のイメージを待機します（フィーダを停止します）。スキャナーの［**開始／再開**］ボタンを押すと、スキャンを再開します。スキャンを停止するには［**停止／一時停止**］ボタンを押します。

このオプションで、スキャンしたページのプレビューイメージを確認して、スキャンイメージを**承認**を選択するか、またはページを**再スキャン**を選択して重送アラームを作動させたイメージをスキャンから破棄できます。スキャンしたイメージは承認されるまでホストアプリケーションには送信されません。このオプションで、すべての重送をスキャナーで管理できます。スキャンアプリケーションでのイメージ操作は必要ありません。このオプションにより、スキャナーの前にいるだけでいいので、無駄な動きと疲労を軽減できます。**これはスキャナーが提供するオプションです。スキャンアプリケーションへの変更は必要ありません。**



注：スキャナーファームウェアがバージョン 3.9.1 以上の場合、**スキャン一時停止**の重送アクションを使用すると、このオプションは自動的に有効になります。

プレビューイメージは、ISIS ドライバで選択したイメージ処理設定（自動回転）に応じて回転します。スキャンアプリケーションがイメージを回転している場合、またはその他のイメージ処理を実行している場合、プレビューイメージにはスキャンイメージ処理が適用されません。

- 両面（表面と裏面）スキャンの場合は、両方のイメージが表示されます。
- 白黒スキャンの場合は、白黒のイメージが表示されます。
- カラー／グレースケールスキャンの場合は、カラー／グレースケールのイメージが表示されます。
- デュアルストリームスキャンの場合は、カラー／グレースケールのイメージが表示されます。
- VRS ソフトウェア白黒スキャンの場合は、グレースケールのイメージが表示されます。

イメージの承認：イメージを承認する場合は、オペレータコントロールパネルで［**承認**］を選択するか、スキャナーの［**開始／再開**］ボタンを押します。［**承認**］を選択すると、スキャナーのプレビューに表示されたイメージがすぐにスキャンアプリケーションに送信され、スキャンが続行されます。

ページの再スキャン：ページを再スキャンする必要がある場合は、出力トレイから一番上のページを取り出して、入力トレイに戻します（ドキュメントの作成問題は必ず全て補正してください）。再スキャンする準備が整ったら、オペレータコントロールパネルの［**再スキャン**］を選択します。プレビューイメージは破棄されます。印字が有効でない場合、スキャナーはすぐにスキャンを開始します。印字が有効の場合、スキャナーには［停止］画面が表示され、スキャンされた次のページに対して［**印字をスキップ**］を選択できます。その後、スキャナーの［**開始 / 再開**］ボタンを押して、スキャンを続行することができます。

- **スキャン一時停止 - 用紙を搬送部に残す**：スキャンがただちに停止します（搬送路をクリアしようとしません）が、スキャンアプリケーションは、追加のイメージを待機します（フィーダを停止します）。スキャンセッションを開始する前に、搬送路からドキュメントをクリアします。スキャナーの **[開始 / 再開]** ボタンを押すと、スキャンが再開します。スキャナーの **[停止 / 一時停止]** ボタンを押すか、スキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。
- **スキャン停止 - イメージ生成**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。重送書類のイメージが生成されます。搬送部に用紙が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。

PC の音源を鳴らす — 重送検出時に音を鳴らす場合、このオプションを選択します。スキャナーはユーザが重送用に設定した音を鳴らします。

注：**[スピーカー]** アイコンをクリックすると、[開く] ダイアログボックスが表示され、音源用に希望する音 (.wav ファイル) を選択できます。

キャリブレーション — ［キャリブレーション］ウィンドウを表示します。このウィンドウからは**イメージチェーン**または **UDDS** キャリブレーションを実行できます。

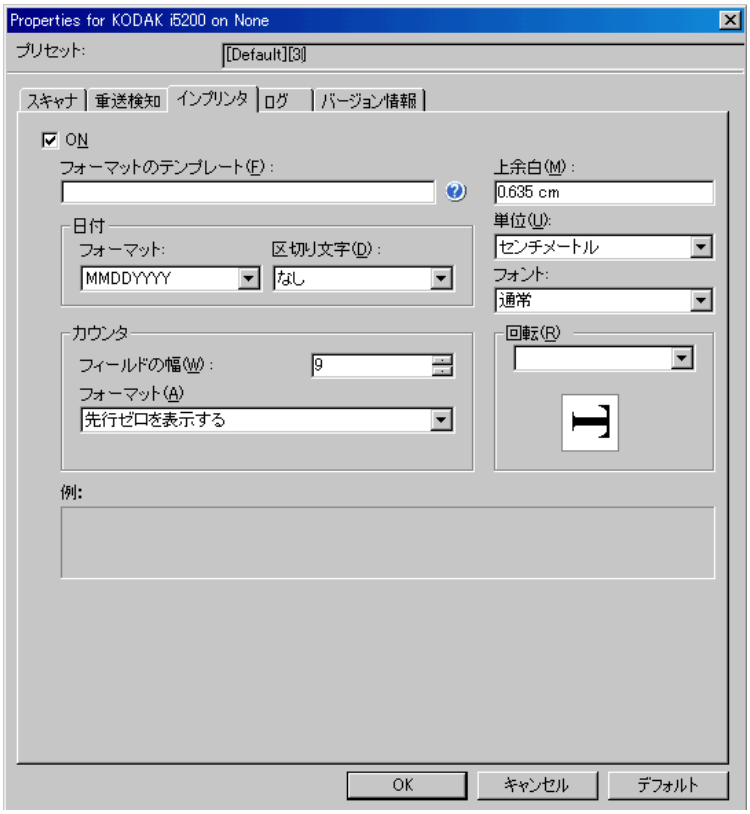
注：キャリブレーションは頻繁に行う必要はありません。サービス & サポート担当者の指示があった場合のみキャリブレーションを実行します。

［インプリンタ］タブ

プリンタは、スキャナーの最高速度で動作します。日付、時刻、ドキュメントカウンタ、カスタムメッセージを印字できます。

このタブは、オプションのプリンタアクセサリを購入し、取付け済みの場合に表示されます。

リテラル（静的）情報（バッチ名、オペレータ名など、どの原稿に対しても同じになる情報）とダイナミック（動的）情報（ドキュメントカウンタなど、スキャンする原稿ごとに異なる情報）の両方を組み合わせて設定できます。リテラル（静的）フィールドはスキャンソフトウェアによって制御されます。ソフトウェアからユーザが入力できる情報をプリンタに送信できます。



オン — プリンタを使用する場合は、ここをクリックします。

注：スキャナーのタッチスクリーンから、印字の優先処理を設定できます。

レベル — 設定する印字文字列のレベルを選択します。一度に最大 4 つの違う印字文字列を設定できます。このオプションを使用してパッチシートへの印刷を防ぐことができます。例えば、パッチ 2 シートへの印刷を防ぐには、レベル 1 のフォーマットテンプレートを設定し、レベル 2 のフォーマットテンプレートは空欄のままにします。

- **すべてのレベル**：すべてのドキュメントに印刷します
- **レベル 1**：レベル 1 のドキュメントにのみ印刷します
- **レベル 2**：レベル 2 のドキュメントにのみ印刷します
- **レベル 3**：レベル 3 のドキュメントにのみ印刷します

フォーマットのテンプレート - フォーマットテンプレートは印字文字列を構築するために使用されます。印字文字列はドキュメントが搬送路を通過する際に印刷される文字です。前面プリンタを使用している場合、印字文字列はスキャン前にドキュメントに印刷されるため、イメージの一部といえます。背面プリンタ（i5850 スキャナー）を使用している場合、ドキュメントはスキャン後に印刷されるため、印刷はイメージ上にありません。それぞれの印字文字列の最大文字数は 40 文字です（スペースを含む）。

フォーマットテンプレートを構築するときに、次のインプリンタフォーマット変数を使用できます。

%S または # = カウンタ

%T = 時刻

%Y = 日付

%% = 「%」

注：これらの変数における追加のフォーマットオプションについては、オンラインの ISIS ヘルプドキュメントを参照してください。

i5850 スキャナーはインデックス / イメージアドレスフィールドでの印刷を有効にするために、次の変数に対応しています。

%A = イメージアドレスの第 1 エレメント（例、固定フィールド）

%B = イメージアドレスの第 2 エレメント（例、レベル 1）

%C = イメージアドレスの第 3 エレメント（例、レベル 2）

%D = イメージアドレスの第 4 エレメント（例、レベル 3）

日付 — 印字文字列に日付を追加する場合は、以下のフォーマットから選択します。

- **フォーマット**：MMDDYYYY、DDMMYYYY、YYYYMMDD。
- **区切り文字**：次のいずれかのセパレータを選択します。**スラッシュ (/)、ダッシュ (-)、ドット (.) 、スペース、なし**。例：08/24/2010、08-24-2010、08.24.2010、08 24 2010、08242010（なしの場合）。

カウンタ — 印字文字列にカウンタを追加する場合は、以下のオプションが使用できます。

- **フィールドの幅**：ドキュメントカウンタの桁数を定義します。値は、1 ～ 9 までの範囲です。
- **フォーマット**：印字するカウンタ値の桁数がフィールド幅以下の場合、カウンタのフォーマットを設定できます（下の例はフィールド幅が 3、カウンタ値が 4 の場合です）。次のオプションを選択できます。
  - **リーディングゼロの表示**（デフォルト）："004"
  - **リーディングゼロの削除**："4"
  - **リーディングゼロの圧縮**：" 4"

上端 — 原稿の上端から印字文字列までの距離を定義します。テキストボックスに適切な値を入力します。

注：情報がすべて印字されていなくても、印字は原稿の後端から 6.3 mm のところで自動的に停止します。

単位 — **インチ**、**センチメートル**、**ピクセル**のいずれかを選択します。

- **フォント**：情報を印字する方向を選択できます。**値は、[標準]、[大文字]、[太字]** です。



標準：90 度回転

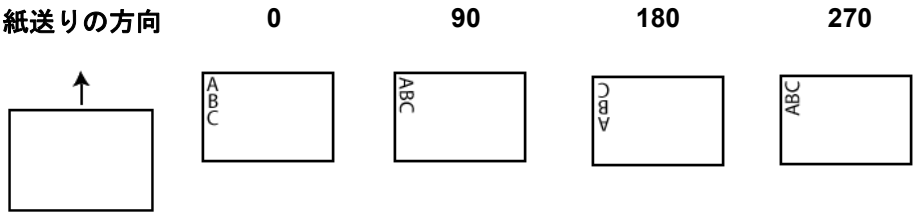


大文字：90 度回転



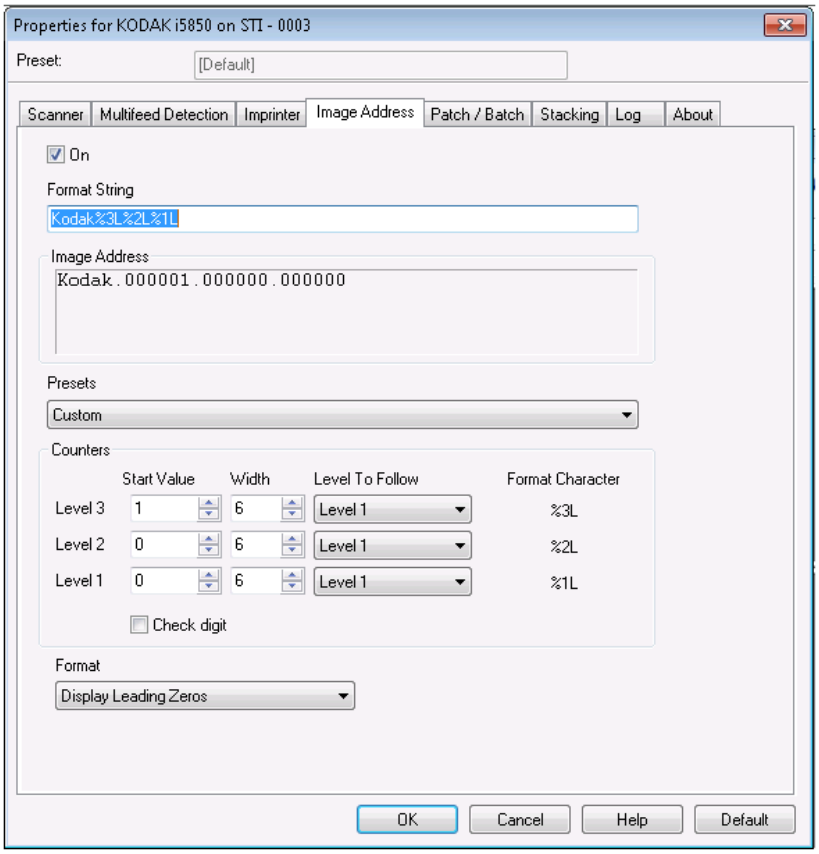
太字：90 度回転

- **回転** - 文字を縦方向（書類の先端から開始）に印字する場合、印字文字列の方向を選択できます。選択可能なオプション：**0、90、180、270**。



[イメージアドレス] タブ - i5850 スキャナーのみ

インデックス / イメージアドレスは、ドキュメントのトラッキング、バッチコントロール、およびイメージ管理に使用されます。スキャナーはこのタブ上の選択の設定方法に基づいて、インデックスを増やします。

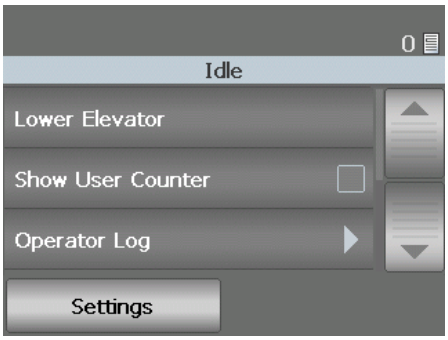


Kodak i5850 スキャナーには、イメージアドレス機能を持つスキャナーではこれまで使用できなかったオプションがあります。i5850 スキャナーでは、スキャナードライバーでスキャナーのインデックスを有効にするか無効にするか制御できます。インデックスが**なし**に設定されている場合、インデックスカウンタはスキャナーのオペレータコントロールパネルに表示されません。

インデックス - 有効



インデックス - 無効



注：ジョブが開始されるまで、オペレータコントロールパネルは変わりません。

オン — インデックスをオンにして、このタブの他のオプションを有効にします。

フォーマット文字列 — このテキスト フィールドでは、イメージ アドレスを構成することができます。上記のサンプル画面のフォーマット文字列は、アドレスの固定フィールド値と、3 レベルのイメージ アドレスを表します。

[イメージ アドレス] — 開始イメージ アドレスを表示します。このフィールドの値は、[フォーマット文字列] 領域と、[カウンタ] 領域の [開始値] フィールドの情報を反映しています。各フィールドの最大幅は 9 文字です。合計イメージ アドレスが、27 文字（3 つの区切り文字を含む 30 文字）を超えてはなりません。

プリセット — このフィールドの選択肢を使用して、フォーマット文字列フィールドに自動的に入力することができます。オプションは次のとおりです。

- **カスタム**：希望する値を入力
- **なし**
- **レベル 3**：Address%3L%2L%1L
- **レベル 2**：Address%2L%1L
- **レベル 1**：Address%1L
- **レベル 3 オフセット**：Address%3L%2L
- **レベル 2 オフセット**：Address%2L

固定フィールドの設定や、固定フィールド値の入力はできません。デフォルトの固定フィールド値は **Address** です。

カウンタ — 各イメージ アドレス レベルに対して、**開始値**と**幅**を入力し、**準拠するレベル**を選択します。

- **開始値**：開始値は、フォーマット文字列で指定したフィールド内のイメージ アドレスに反映されます。
- **幅**：0 の値は、イメージ アドレス レベルを使用しないことを示します。幅は 9 文字以内でなければなりません。
- **Level to Follow（準拠するレベル）**：他の入力がない場合に、スキャナーが次のイメージ アドレス レベルを設定するために従うルールです。たとえば、パッチ シートやバッチ処理の最後などの場合があります。イメージ アドレスで定義した各レベル フィールドに対して、準拠するレベルを定義する必要があります。

  注： [幅] の欄の合計値と固定フィールドの文字数の合計が、27 文字以内でなければなりません。

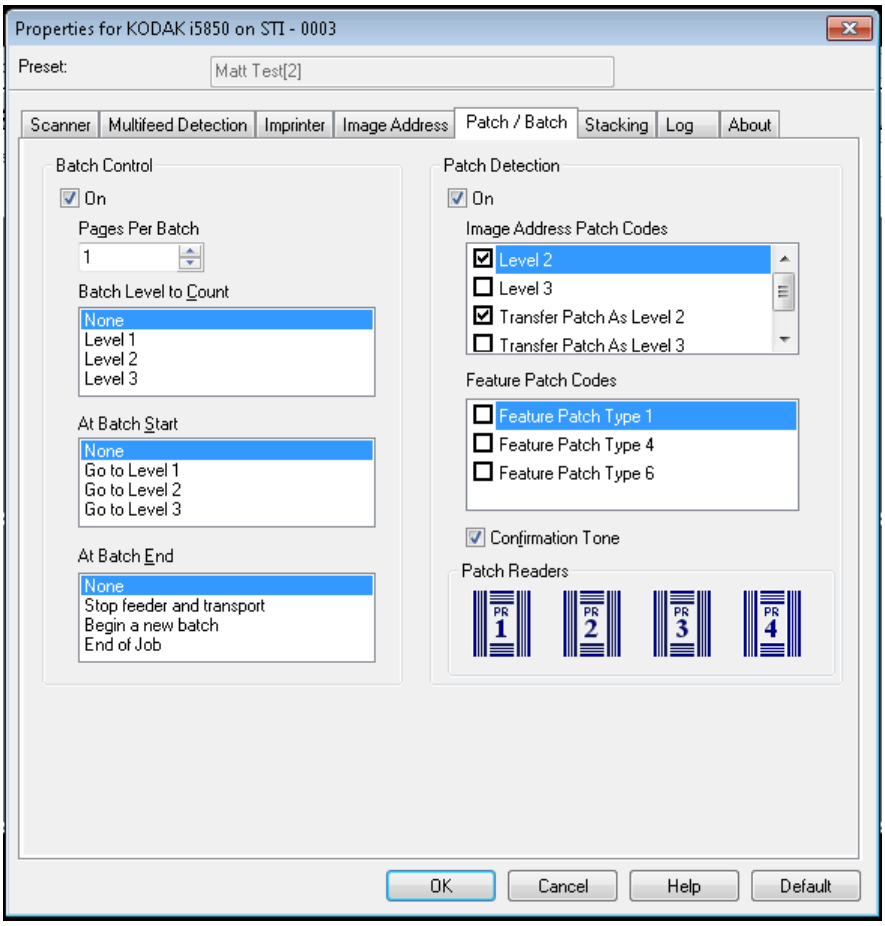
数字を確認 — 選択すると、文字がイメージアドレスの文字列に追加されます。数文字の確認はイメージアドレスの文字列の文字の値で判断されます。詳細は、テクニカルサポートにお問い合わせください。

フォーマット — プリンタが使用し、タッチスクリーンに表示されるイメージ アドレス文字列のフォーマットを選択します。カウンタ フォーマットの印刷用には、以下の選択肢が提供されています。

- **先行ゼロを表示するフォーマット**（**例**：0009）。デフォルト設定です。
- **先行ゼロを抑制するフォーマット**（例：9）。
- **先行ゼロを圧縮するフォーマット**（**例**：9）。

[パッチ / バッチ] タブ

[バッチ / パッチ] タブは、バッチとパッチの機能を提供します。バッチは、ページ／ドキュメント数をカウントする作業です。[パッチ] タブで認識するパッチの種類を選択できます。複数のパッチを 1 度に選択できます。



バッチ コントロール

オン — バッチ処理をオンにして、バッチコントロールの他のオプションを有効にします。

バッチごとのページ — ドキュメントが指定枚数に達していない場合に取るアクションを実行する前に、カウントするドキュメントの枚数を定義します。

カウントするバッチ レベル — カウントするレベルを設定します。**なし、レベル 1、レベル 2、**または**レベル 3** を選択できます。カウントするレベルは、[イメージアドレス] タブで定義されているイメージアドレスのテンプレート内になければなりません。

バッチの開始— カウントが指定枚数に達してから、次のドキュメントへのレベルを定義します。次のオプションがあります。**なし、レベル 1 に進む、レベル 2 に進む、レベル 3 に進む**。

バッチの最後 — バッチの最後のドキュメントの処理後に実行するアクションを定義します。次が選択できます。**なし、フィーダーとトランスポートを停止、新しいバッチを開始、ジョブの終了**。

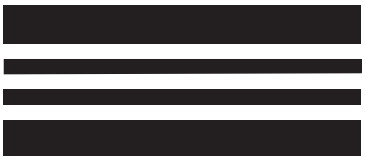
パッチ検出

ON — パッチ検出をオンにすると、パッチ検出の他のオプションを有効にします。

イメージ アドレス パッチ コード — これらのパッチ タイプは、イメージ アドレスに使用されます。パッチリーダでパッチが検出されると、新しいドキュメントに新しいイメージアドレスが自動的に割り当てられます。このため、イメージを見ながら 1 セットのドキュメントの終了位置と次セットのドキュメントの開始位置を指定する必要がありません。階層ドキュメント構造と、自動代替バッチを提供します。**[レベル 2]**、**[レベル 3]**、**[トランスファーパッチ - レベル 2]** または **[パッチ T/ トランスファーパッチ - レベル 3]** を選択できます。

パッチリーダは、あらかじめ定義されたパッチコードを自動的に感知し、それに応じてドキュメントレベルを変更します。

パッチ 2 - レベル 2 を*現在*のドキュメントに割り当てます。



（これらのパッチはサンプルであり、仕様どおりではありませんので、実際の処理には使用しないでください。）

パッチ 3 - レベル 3 を*現在*のドキュメントに割り当てます。



（これらのパッチはサンプルであり、仕様どおりではありませんので、実際の処理には使用しないでください。）

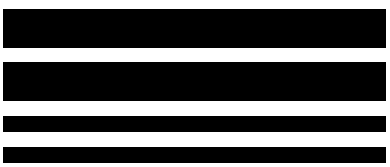
パッチ T/ トランスファー パッチ - 事前定義されたレベルを*次*のドキュメントに割り当てます。[定義] ボックスでレベル 2 またはレベル 3 を選択した場合に定義されます。



（これらのパッチはサンプルであり、仕様どおりではありませんので、実際の処理には使用しないでください。）

機能パッチコード — これらのパッチタイプは、スキャン後のイメージコントロールのためにホストによって使用されます (イメージ アドレスの作成には使用しません)。たとえば、白黒からカラーやグレースケールに変更するときや、ワークフローの制御に使用します。

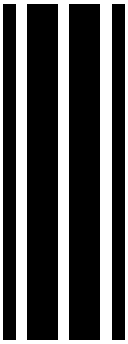
機能パッチタイプ 1



（これらのパッチはサンプルであり、仕様どおりではありませんので、実際の処理には使用しないでください。）

機能パッチタイプ 4





イメージアドレス管理が無効の場合

（これらのパッチはサンプルであり、仕様どおりではありませんので、実際の処理には使用しないでください。）

機能パッチタイプ 6



（これらのパッチはサンプルであり、仕様どおりではありませんので、実際の処理には使用しないでください。）

認識トーン - パッチが認識されたことを通知するために認識トーンを使用することができます。デフォルトでは認識トーンはありません。

パッチリーダ — スキャナー内の物理的なパッチリーダ位置と対応しているアイコンを選択します。1、2、3、4 のいずれかのパッチリーダを選択します。

PR1 - 左側のパッチリーダです。

PR2 - 中央左側のパッチリーダです。

PR3 - 中央右側のパッチリーダです。

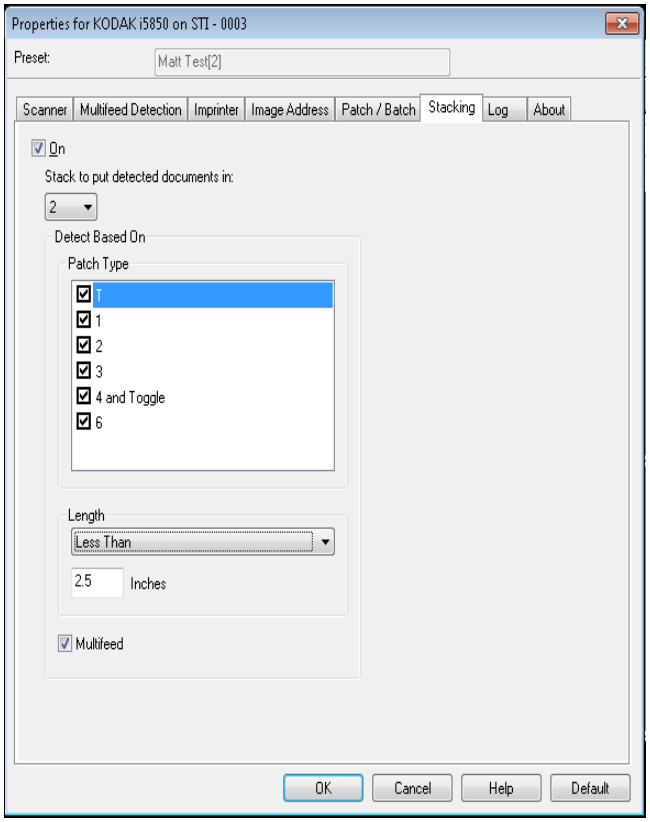
PR4 - 右側のパッチリーダです。



[スタッキング] タブ

[スタッキング] タブでは、*Kodak* 管理スタッキングアクセサリ出力トレイの 2 つのスタックに、原稿を仕分けるオプションを設定できます。

注：[スタッキング] タブは、スキャナーで *Kodak* 管理デュアルスタッキングアクセサリが有効な場合にのみ使用できます。



ON ― スタッキングをオンにして、このタブの他のオプションを有効にします。

注：スキャナーのタッチスクリーンからオンまたはオフにすることで、スタッキングは優先処理される場合もあります。

検出された原稿を入れるスタック：どのスタックに **[検出基準]** 設定に一致する原稿を入れるかを指定します。一致しない原稿はすべて別のスタックに入ります。

注：原稿の重さや状態により、原稿を最適にスタックできるかどうかに影響する可能性があるため、長さが 6 インチ /152 mm 未満の原稿（請求書など）はスタック #1 に、6 インチ /152 mm 以上の原稿（パッチシートなど）はスタック #2 に仕分けることをお勧めします。

検出基準

- **パッチタイプ** — パッチシートがある場合、どのパッチシートを原稿セットから仕分け、そして選択したスタックに入れるかを選択できます。次の任意の組み合わせがオプションになります。**T、1、2、3、4 とトグル**、および **6**。パッチシートはスタック #2 に仕分けることをお勧めします。

  タッチスクリーンのデュアルスタッキングトグルパッチオプションで、パッチシートを使用して原稿をスキャンされた原稿からスタック #2 またはスタック #1 に仕分けることができます。

  注：

  - スキャナーはパッチシートのイメージを生成します。
  - スキャナーは縦のパッチのみ認識します。
  - パッチシートを硬い紙に印刷すると、より確実にスタッキングできるようになります。
  - 詳細については、『ユーザーズガイド』の「パッチコードの要件」のセクションを参照してください。

長さ — どの原稿を原稿セットから仕分けるかを、原稿の長さを基準に選択できます。

- **オフ**
- **以下**：この長さ以下の原稿が、選択したスタックに仕分けられます。比較的短い原稿（請求書など）をスタック **1 に仕分ける場合、このオプションをお勧めします。**
- **以上**：この長さ以上の原稿が、選択したスタックに仕分けられます。比較的長い原稿をスタック **2** に仕分ける場合、このオプションをお勧めします。
- **範囲**：長さが選択した範囲内の原稿が、選択したスタックに仕分けられます。

  注：

  - スキャン中に原稿が斜めに傾いてしまうこともあり得るため、長さには 1/2 インチ /25 mm を加算して入力してください。
  - 6 インチ /152 mm 未満の原稿では、短原稿インサートを使用することで、スタック **1** へのスタッキングをより確実に行うことができます。

重送 — 重送されたと判断される原稿をすべて仕分ける場合、このオプションを選択します。これをオンにする設定、および重送検知の設定は、[デバイス - 重送] タブで行います。

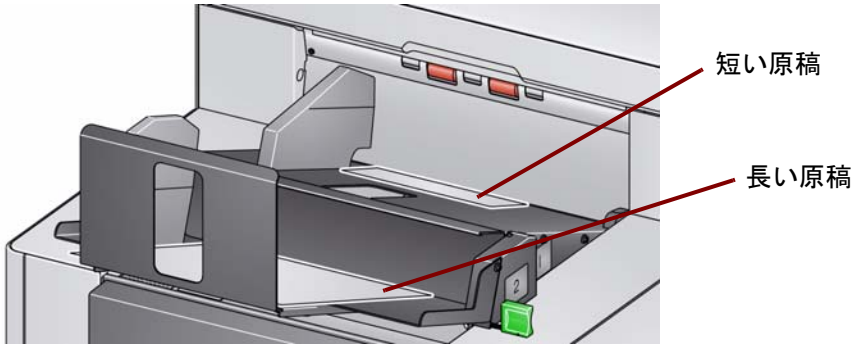
注：

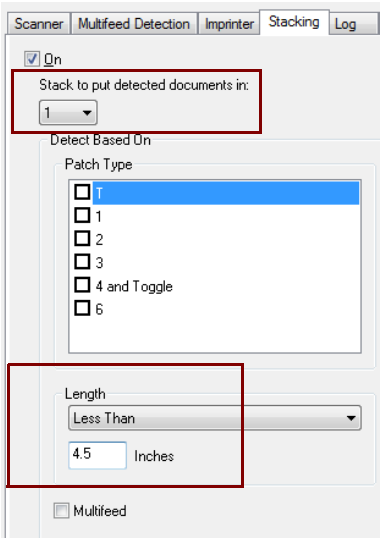
- このオプションは、比較的厚い原稿を検出して、スタック #2 に仕分けることを可能にすることで、追加の機能を提供できます。これは、原稿がすべて小さいサイズであるため長さ基準の検知を使用できない場合に、検討すべき機能です。
- このオプションは、重送検知を自動的にオンにしません。

スタッキングオプションを使用する場合の推奨設定

以下に、スタッキングオプションを使用する方法をいくつかの例で示します。

短い原稿の選別





請求書などの短い原稿をその他の原稿と選別する場合、スタッキングを次のように設定します。

検出された原稿を入れるスタック：

1（スタック #1）

*長さ*オプション：

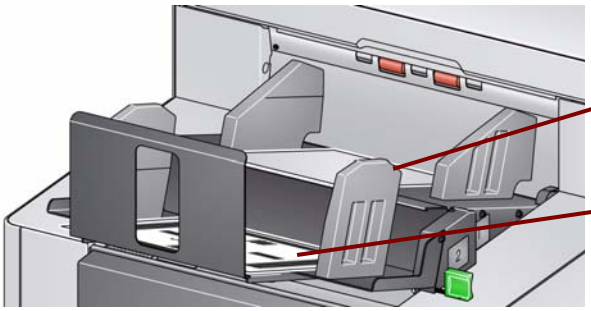
未満：最も短い原稿に 1/2 インチを加算した長さを設定します。

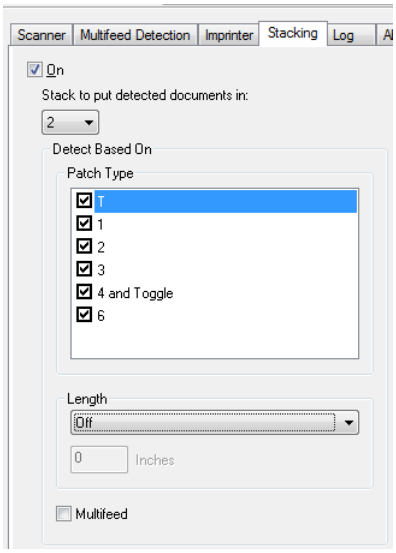
注：

- 短い原稿を給紙中に斜めに傾いてしまうこともあり得るため、1/2 インチを加算する必要があります。
- 比較的短い原稿をスタック#2にスタックしようとしても、スタック #2 の位置には届かず、うまくいきません。

- 6 インチ未満の原稿では、短原稿インサートを使用することで、スタック #1 へのスタッキングをより確実に行うことができます。

パッチコード付き原稿区切りの選別





パッチコード付き原稿区切りシート（またはカラートグルパッチシート）をその他の原稿と選別する場合、スタッキングを次のように設定します。

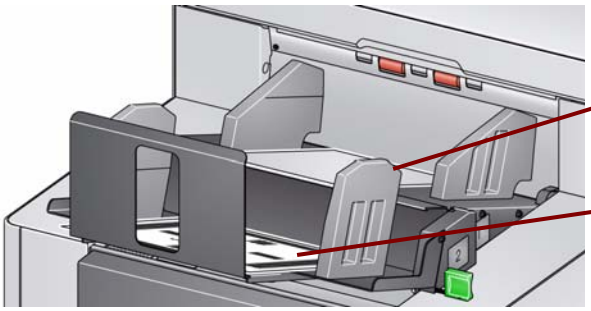
検出された原稿を入れるスタック：

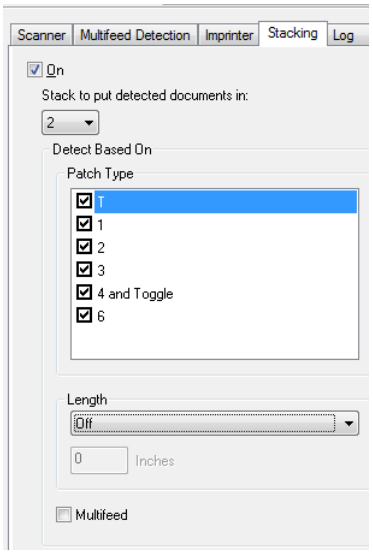
2（スタック #2）

*検出基準：パッチタイプ*オプションに、1 つ以上のパッチタイプを設定します。

原稿区切り用に挿入されたパッチ付き原稿は、通常では大量に注文されるか、要求に応じて印刷されます。管理デュアルスタッキングでは、作業に役立つ硬い紙を検出し、この用紙にパッチ付き原稿を印刷します。これにより、選別とスタッキングがより確実にできるようになります。

選択した原稿の選別





選択した原稿をスタックと選別する場合は（10,000 ドルを超える請求書など）、スタッキングを次のように設定します。

検出された原稿を入れるスタック：

2（スタック #2）

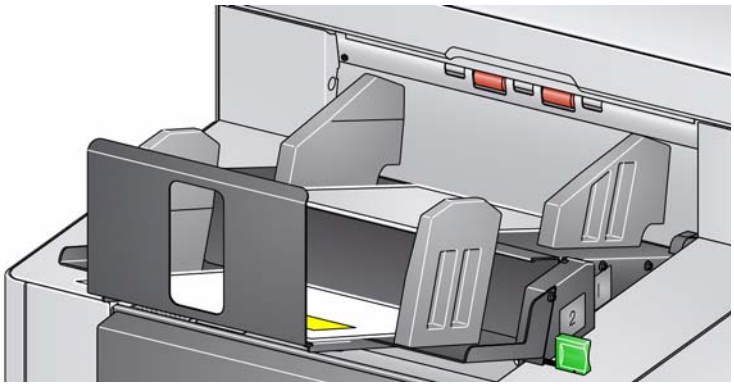
検出基準：*パッチタイプ*オプションに、1 つ以上のパッチタイプを設定します。

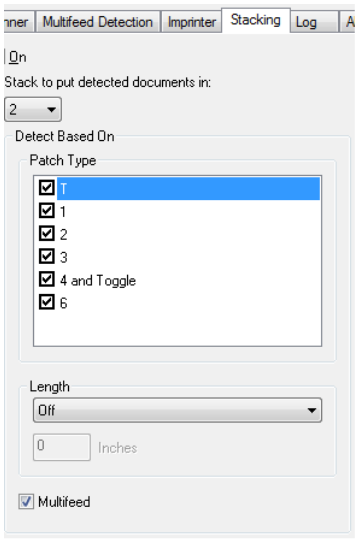
スキャナーのタッチスクリーンの**デュアルスタッキングトグルパッチ**を、原稿区切り用に指定されていないパッチタイプ（パッチ 6 など）に設定します。

原稿作成中に、パッチシートを選別する原稿の前後に差し込みます。

スキャン後に、パッチシートと原稿がスタック #2 に出力されます。

重送アラーム原稿の選別





重送アラームを作動させた原稿を選別する場合、スタッキングを次のように設定します。

検出された原稿を入れるスタック：

2（スタック #2）

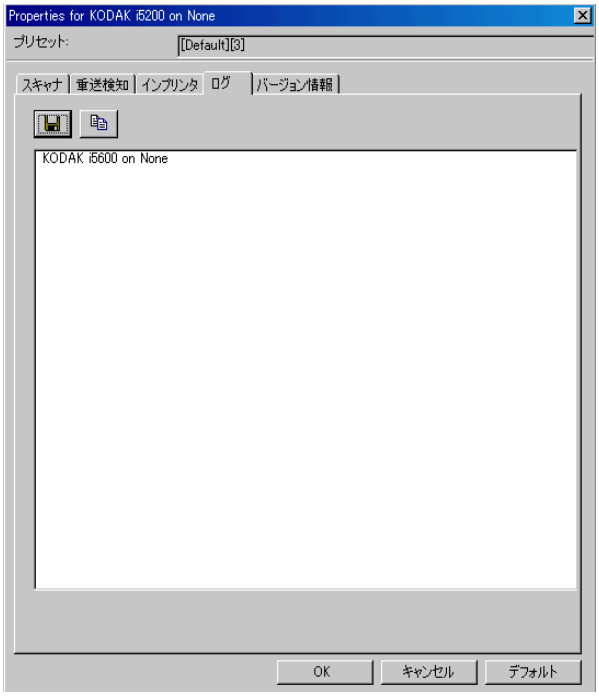
*検出基準：重送*オプションを設定します。

重送により例外スタッキングを作動させると、機能がさらに増えます。たとえば、スタック #2 で重送アラームを作動させるようなスタッキング原稿は、比較的厚い原稿を選別する方法になり得ます。サイズやパッチではこのような原稿を選別できません。

注：**最大長の許可**を優先にしても、管理デュアルスタッキングの長さ保護は無効になりません。

［ログ］タブ

［ログ］タブには、これまでに発生したエラーが表示されます。



オペレータログと測定値ログのデータは表示したり、[保存] アイコンをクリックして保存したり、データをクリップボードにコピーしてドキュメントに貼り付けることもできます。

Kodak Alaris Inc.
2400 Mount Read Blvd.
Rochester, NY 14615

© 2014 Kodak Alaris Inc.
All rights reserved.
コダックの商標およびトレードドレスはイーストマンコダック社の許可を受けて使用しています。